

2010年度  
**履修要項**  
**Syllabus**

(講義概要・授業計画)



二〇一〇年度 履修要項 Syllabus (講義概要・授業計画)

龍谷大学大学院理工学研究科

龍谷大学大学院理工学研究科

<http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/>

## 研究科・専攻英文名

龍谷大学大学院	Ryukoku University Graduate School
理工学研究科	School of Science and Technology
数理情報学専攻	Division of Applied Mathematics and Informatics
電子情報学専攻	Division of Electronics and Informatics
機械システム工学専攻	Division of Mechanical and Systems Engineering
物質化学専攻	Division of Materials Chemistry
情報メディア学専攻	Division of Media Informatics
環境ソリューション工学専攻	Division of Environmental Solution Technology

## はじめに

大学創立350周年記念事業の一環として、滋賀県・大津市の誘致を受けて瀬田の地に、1989年に4学科（数理情報、電子情報、機械システム工学、物質化学）からなる理工学部が創設されました。この理工学部を基礎として1993年に大学院理工学研究科修士課程が、1995年に同博士後期課程が設置され、大学院が完成しました。

2003年に時代の要請に応えるべく新学科（情報メディア学、環境ソリューション工学）を新設、2007年4月より「情報メディア学専攻、環境ソリューション工学専攻」の修士課程が、更に2009年4月に博士後期課程が発足し、さらに充実しました。

仏教精神を基礎におき、科学と人間の調和の重要性を自覚できる、高度の科学技術者の育成が本学大学院理工学研究科の目標です。

その目標を実現するため、それぞれの専攻ごとに、自分の専門とする研究分野で課題を見つけ出し、よく考えて解決していくために、深い専門性に加えて周辺分野での知識とその活用力を身につけてほしいと思います。また、本学は、浄土真宗の精神を建学の精神としています。社会的責任感や仏教に根ざした倫理観を育み国際性を備えた科学技術者を目指して、研鑽を積んで頂きたいと思います。理工学の研究においても、現象に対してとらわれすぎることなく、常に自らを検証しながら科学的な根拠に基づいて論理的に考える力を身につけてほしいと思います。

学舎内には、本学附置研究所のひとつである科学技術共同研究センターがあります。また産業界や官界との共同研究、委託研究および文部科学省の助成を得て設立されたハイテク・リサーチ・センター、古典籍デジタルアーカイブ研究センター、里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センターにおいては、院生がプロジェクト推進に大きく貢献してきました。

「修士課程1年修了制」、「博士後期課程1年修了制」の制度もあり、既に、数名の院生がその制度を利用しています。「修士課程1年修了制」は、成績優秀な学部学生が修士課程入学後、1年間で修了を目指すことができる制度です。また、「博士後期課程1年修了制」は、社会人として活躍されている方々が、1年間での博士学位の取得を目指す制度です。意欲ある皆さんをお待ちしております。

また、修士課程においては、広い視野を得る手助けとして他専攻の科目も履修できるようになっていますので大いに利用してください。さらに、「教職」に関する学部科目を科目履修し、単位取得できる優遇制度も設けています。

この『履修要項』には、理工学研究科において勉学を進める上で必要となる重要事項が網羅されています。すなわち、履修方法、登録方法、シラバス、学位論文の審査規程等です。これらを良く読み理解して活用してください。意味不明の点や疑問点については、理工学部教務課の窓口で遠慮なく聞いてください。

皆さんがこの冊子を有効に活用されることを願っております。

2010年4月

理工学研究科長 大柳 満之

# 理工学研究科の「教育理念・目標」「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

## 龍谷大学の教育にかかる基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」、「自立」、「内省」、「感謝」、「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を形成する。

## 理工学研究科の教育理念・目的

理工学研究科は、本学の設立基盤である仏教の思想を基礎に置き高度の専門知識を有する科学技術者を育成し、日本の社会に貢献するとともに科学技術のあるべき道に導く指導者を育てることを目的とする。

## 数理情報学専攻

修士課程は、コンピュータと数学を活用して、自然科学や情報科学の諸分野における様々な問題を解析・研究することを目的とし、コンピュータ・サイエンスに関する深い知識を有すると同時に、種々の問題を数理的思考に基づいて把握・解析できる能力をもった独創性豊かな人材を養成する。

博士後期課程は、自然現象や社会・経済現象の解明に不可欠な理論解析能力と計算機シミュレーション・情報処理などの数理的手法を身につけることを目的とし、数理科学と情報科学の両分野における深い知識と鋭い思考力をもった人材を養成する。

## 電子情報学専攻

修士課程は、電子情報通信分野の急速な進歩に柔軟かつ的確に対応できるように、電子工学・情報工学・通信工学の3分野で、専門的かつ総合的な知識と能力を身につけることを目的とし、ハードウェアからシステムやソフトウェアまで、幅広い研究開発を行うことのできる人材を養成する。

博士後期課程は、電子工学・情報工学・通信工学の専門的かつ総合的な知識と能力をさらに深め、自ら課題設定・課題分析・課題解決を行い、学術論文として発表する実力を身につけることを目的とし、電子情報通信分野で国内のみならず世界に通用するリーダーシップを発揮することのできる人材を養成する。

## 機械システム工学専攻

修士課程は、ハード・ソフトの両視点でバランスのとれた機械システム工学に関する教育を基礎に、材料・機械力学、熱・流体力学、機械設計・加工、制御システムなどに関する高度な知識を修得させることを目的とし、安全性や信頼性の高い機能的な機械システムを総合的に構築できる人材を養成する。

博士後期課程は、ハードウェアとソフトウェアに対する均衡のとれた知識を基礎に、力学系、エネルギー系、システム系の3分野に関する高度で幅広い知識や技術を修得させることを目的とし、安全性や信頼性に優れた機械システムを総合的に構築でき、深い洞察力や応用力、さらには地球の自然やエネルギーに関する環境思考を身につけた人材を養成する。

## 物質化学専攻

修士課程は、物質化学に関する授業、研究を通じて高い専門知識とその応用力を身につけることを目的とし、それらを駆使して科学技術に関する問題を分析・整理し、解決に導くことのできる人材を養成する。

博士後期課程は、物質化学に関する高度な研究を通じて高い専門知識とその応用力を身につけることを目的とし、それらを駆使して科学技術に関する問題を発見・分析・整理し、解決に導くことのできる自立した研究者を養成する。

#### 情報メディア学専攻

修士課程は、人・環境にやさしい高度情報化社会が創出されるにあたり、その確固たる基盤の形成に寄与することを目的とする。この目的を達成するために、現在の産業構造に対応できるだけでなく、必要とされる先端情報メディア技術、新たな情報産業の創出に適合することができるよう、専門知識、問題解決能力およびコミュニケーションスキルを有し、論理的かつ創造的に思考できる人材を養成する。

博士後期課程は、21世紀の課題である持続的循環型社会を実現するために、急速に発展する情報科学とダイナミックな展開をはかる技術革新の分野において高度な専門的知識を有し、多面的な様相を見せている課題に対して総合的に理解し、その課題解決を追求する能力をもつ人材を養成する。

#### 環境ソリューション工学専攻

修士課程は、環境負荷排出と環境質損失という従来型の問題に加え、遺伝子資源の保全や生活環境におけるアメニティの確保など広範囲な分野を包括する環境諸問題への対処を図るため、工学的知識に加え、自然環境・生態系に関する幅広い生態学的知識と工学的センスを併せ持った人材を養成する。

博士後期課程は、環境諸問題への包括的対応を図るために、課題解決型の工学的知識に加え、自然環境・生態系に関する幅広い知識をもった、豊かで潤いのある生活環境の創造を志す人材を養成する。

#### 学位授与の方針 [修士 (理学・工学)、博士 (理学・工学)]

[大学院生に保証する基本的な資質]

#### 数理情報学専攻

修士課程	備えるべき能力	○高度な数学的・数理科学的素養を身につけ、学部で得た知識や論理を深めていくことができる。 ○情報社会におけるIT技術を根底から支える高度な理論、技術を修得することができる。
	将来発揮することが期待される能力	○創造的活動を自律的に進めることで、さまざまな問題に柔軟に対処できるようになる。 ○異なる分野を融合して学ぶことで、全体的な視野に立って問題解決を図ることができるようになる。
博士後期課程	備えるべき能力	○修士課程で修得した数学的・数理科学的素養をさらに究め、新たな数理解析の世界を切り開いていくことができる。 ○ソフトウェア開発や情報処理に関するより高度な理論を身につけ、新技術開発に貢献することができる。
	将来発揮することが期待される能力	○数理的な専門知識・思考方法に基づき、既存の課題探求のみならず、新規に問題を創造し、挑戦することができるようになる。 ○高度な専門性を備えながらも、専門の枠にとらわれず自由な発想でさまざまな困難に対峙することができるようになる。

### 電子情報学専攻

修士課程	備えるべき能力	○電子情報通信技術の急速な進歩に柔軟かつ的確に対応できる。 ○電子情報通信分野における高度な専門的知識と総合的知識を修得し、それに基づいた電子情報通信技術の開発を行うことができる。
	将来発揮することが期待される能力	○電子工学・情報工学・通信工学の高度な専門知識を用いて、電子情報通信分野の研究開発に貢献することができるようになる。
博士後期課程	備えるべき能力	○電子工学・情報工学・通信工学の高度な専門的知識を用いて、電子情報通信分野の基盤技術の研究開発を行うことができる。 ○電子情報通信分野において、自ら課題設定・課題分析・課題解決を行い、学術論文として発表できる。
	将来発揮することが期待される能力	○電子工学・情報工学・通信工学において、新しい原理や概念を創出し、革新的技術を開発することができるようになる。 ○電子情報通信分野で国内のみならず世界に通用するリーダーシップを発揮することができるようになる。

### 機械システム工学専攻

修士課程	備えるべき能力	○ハード・ソフトの両視点でバランスのとれた、材料・機械力学、熱・流体力学、機械設計・加工、制御システムなどに関する高度な知識に基づき、時代が求める機能的な機械システムを構築できる。
	将来発揮することが期待される能力	○安全性、信頼性、環境、エネルギー効率などの視点に立った、社会の持続的発展に寄与する機械システムを創造するとともに、設計開発において中心的役割を担うことができるようになる。
博士後期課程	備えるべき能力	○力学系、エネルギー系、システム系の3分野にわたる高度で幅広い知識や技術に基づき、ハードウェアとソフトウェアの両面において優れた機械システムを総合的に構築できる。
	将来発揮することが期待される能力	○地球の自然やエネルギーに関する環境思考に基づき、安全性や信頼性に優れた先端的機械システムを創造するとともに、研究開発において世界的水準で指導力を発揮することができるようになる。

### 物質化学専攻

修士課程	備えるべき能力	○物質化学に関する高度な専門知識を体系的に身につけ、それらを応用することによって、問題解決の方法を見いだすことができる。 ○研究の成果を分かりやすく日本語および英語で記述・発表することができる。
	将来発揮することが期待される能力	○共生や循環の考え方に基づいた技術者倫理を身につけ、それを元に行動することができるようになる。 ○自己の知識や技能を常にアップデートする習慣をもつことによって、社会における多様な課題に対応し、社会の福利に寄与することができるようになる。
博士後期課程	備えるべき能力	○物質化学に関する高度な専門知識とその応用力を身につけ、それらを駆使して科学技術に関する問題を分析・整理し、解決に導くことができる。
	将来発揮することが期待される能力	○世界中の研究者と連携しながら科学の先端を切り開くことができるようになる。 ○社会における諸問題に目を向けながら科学技術に関する課題を発見し、研究グループを組織できるようになる。

### 情報メディア学科専攻

修士課程	備えるべき能力	○先端情報メディア技術、新たな情報産業の創出に寄与できる基盤的能力を持ち、情報・メディア技術に関する科学・工学に立脚した研究開発を行うことができる。
	将来発揮することが期待される能力	○人・環境にやさしい高度情報化社会の確固たる基盤の形成に寄与するために、現在の産業構造に対応できるだけでなく、必要とされる先端情報メディア技術、新たな情報産業の創出に適合できるようになる。
博士後期課程	備えるべき能力	○情報科学・情報工学の高度な知識を用いて、情報・メディアに関する新しい解析法・処理法・加工法を自ら提案・展開していくことができる。 ○単一の学問領域に留まらず、様々な学術領域において、情報技術およびメディア技術を用い課題解決を行うことができる。
	将来発揮することが期待される能力	○理・工学領域に立脚した情報技術およびメディア技術をベースに、現在および将来の産業と社会を牽引する新たな技術・新たな価値を創出することができるようになる。

### 環境ソリューション工学専攻

修士課程	備えるべき能力	○環境問題の発生源としての人間活動とその背景、および問題となる現象のメカニズムについて幅広く理解することができる。 ○フィールドワークにより観測された様々な事象を理解・解釈し、「共生」の観点から再構築することができる。 ○専門分野の枠にとらわれず、環境諸問題の解決に向けた柔軟な思考を有することができる。
	将来発揮することが期待される能力	○環境に関する幅広い知識と経験をもとに、広く環境問題を解決する担い手として能力を発揮できるようになる。 ○人と自然が一体であるという「共生」の世界観を具現化できるリーダー的役割を果たすことができるようになる。
博士後期課程	備えるべき能力	○既存の公害・環境問題の解決に貢献してきた法律・行政・技術に関する幅広い知識を有することができる。 ○人間社会のあるべき姿を提示するための生態学的知識と、問題解決のための手段を選択するための工学的センスを身につけることができる。
	将来発揮することが期待される能力	○現在の社会において発生している新規の環境問題の解決に向けて対応できる創造的な能力を発揮することができるようになる。 ○工学的素養と生態学的知識を融合させ、豊かで潤いのある生活環境の創造を志向することができるようになる。

#### [学位授与の諸要件]

修士課程	○修士課程に原則として2年以上在学すること。 ○正規の授業を受け、所定の科目について32単位以上を修得すること。 ○龍谷大学大学院理工学研究科研究指導要項に基づき、必要な研究指導を受けた上で、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格すること。 ○課程修了の認定には、その研究に必要な1ヶ国以上の外国語に通ずることを条件とする。
博士後期課程	○博士後期課程に原則として3年以上在学すること。 ○龍谷大学大学院理工学研究科研究指導要項に基づき、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。 ○課程修了の認定には、その研究に必要な1ヶ国以上の外国語に通ずることを条件とする。

**教育課程編成・実施の方針****数理情報学専攻**

修士課程	<p>○学部で身につけた知識・論理をより深め、新たな課題の発見や解決に挑戦し、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す。特に、スペシャリストとジェネラリストのバランスを重要と考え、数理解析・応用数理・情報科学の3分野（および他専攻科目）にわたる特論科目（16単位以上修得）を設置し、複数の分野を融合して学修できる体制を整えるとともに、それぞれの分野を専門とする教員が担当する演習科目（数理情報学演習Ⅰ・Ⅱ、8単位）、数理情報学特別研究（2年にわたり8単位）を設け、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>○数理情報学特別研究の成果は、修士論文として提出し、その審査に合格することを修了要件に含む。</p> <p>○社会の要請に応えられるように、ただし、単に流行に流されることのないように、FD活動などを通じてカリキュラムを常に見直している。</p>
博士後期課程	<p>○修士課程で修得した知識や論理力を基礎に、さらに高度な専門的知識や技術力を備えるとともに、広い視野により多角的な問題解決能力を有する人材を育成することを目標とする。そのために当専攻では、専門分野を深く学修するための特別講義（数理解析特別講義・応用数理特別講義・情報科学特別講義）ならびに研究指導教員が担当する特別研究（3年にわたり12単位）を設置し、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>○特別研究における研究成果は、博士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを要求する。</p> <p>○修士課程同様、社会の要請、最新の科学技術の動向に応じて、FD活動等により継続的にカリキュラムの改善を行う。</p>

**電子情報学専攻**

修士課程	<p>○電子情報通信に関する高度な専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材を育成するため、電子工学・情報工学・通信工学の3分野（および他専攻科目）の特論科目（16単位以上修得）とともに、研究指導教員が担当する演習科目（電子情報学演習Ⅰ・Ⅱ、8単位）と電子情報学特別研究（2年間にわたり8単位）を設け、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>○電子情報学特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。</p> <p>○カリキュラムはFD活動等を通じて、社会の要請に応えられるように常に見直している。</p> <p>○学部における学修の成果を基礎にして、その専門領域の学修の一層の深化をはかり、豊かな見識と専門知識を備えられるように教育課程を整備する。</p>
博士後期課程	<p>○電子情報通信のさらに高度な専門知識とその周辺分野の知識を活用して社会に貢献すると共に、科学技術のあるべき道に導くことができる人材を育成するため、専門分野に関する特別講義（電子情報基礎特別講義・情報処理機構特別講義・情報システム特別講義）と研究指導教員が担当する特別研究（3年間にわたり12単位）を設け、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>○特別研究の成果を博士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。</p> <p>○カリキュラムはFD活動等を通じて、最新の科学技術に対応するように改善を行う。</p> <p>○研究指導体制の一貫性・継続性を保ち、修士課程における学修の成果をさらに発展させられるように教育課程を整備する。</p>

### 機械システム工学専攻

修士課程	<p>○自立して研究活動を行うに必要な機械システム工学に関する高度の研究能力と専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材を育成するため、他専攻科目を含めた分野の異なる多数の特論科目（16単位以上修得）とともに、研究指導教員が担当する演習科目（演習Ⅰ・Ⅱ、8単位）と特別研究（2年間にわたり8単位）を設け、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>○特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。</p> <p>○カリキュラムはFD活動等を通じて、社会の要請に応えられるように常に見直している。</p> <p>○学部における学修の成果を基礎にして、その専門領域の学修の一層の深化をはかり、豊かな見識と専門知識を備えられるように教育課程を整備する。</p>
博士後期課程	<p>○機械システム工学に関して修得したさらに高度な専門知識と周辺分野での知識を活用して社会に貢献すると共に、科学技術のあるべき道に導くことができる人材を育成するため、専門分野に関する特別講義と研究指導教員が担当する特別研究（3年間にわたり12単位）を設け、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>○特別研究の成果を博士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。</p> <p>○カリキュラムはFD活動等を通じて、最新の科学技術に対応するように改善を行う。</p> <p>○研究指導体制の一貫性・継続性を保ち、修士課程における学修の成果をさらに発展させられるように教育課程を整備する。</p>

### 物質化学専攻

修士課程	<p>○科学技術に関する問題を分析・整理し、解決に導くことのできる人材を育成するため、物質化学に関する幅広い知識、技術、技術者倫理を必修科目で身につける。加えて専門的な選択科目を配置することで高い専門知識とその応用力を身につけられるよう、体系的なカリキュラムを編成する。</p> <p>○特別研究では、担当教員の指導の下で研究を実施し、中間報告会で進捗状況を報告しながら、最終的に修士論文にまとめるよう指導する。その過程で、テクニカルライティングやプレゼンテーションの演習を実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>○社会が求める人材を育成するため、外部評価やFD活動を通じて、講義・演習内容やカリキュラムを常にアップデートする仕組みを構築する。</p>
博士後期課程	<p>○科学技術に関する問題を発見・分析・整理し、解決に導くことのできる自立した研究者を育成するため、専門分野に関する特別講義と特別研究により応用力を身につける。特別研究においてはテクニカルライティングやプレゼンテーションの演習をあわせて実施することによってコミュニケーション能力の向上を図るなど体系的な教育課程を編成する。</p> <p>○特別研究では、担当教員の下で高度な研究を実施し、その成果を学術論文として公表できるように指導する。さらに、中間報告会で進捗状況を報告させながら、最終的に博士論文にまとめるよう指導する。</p> <p>○社会が求める人材を育成するため、外部評価やFD活動を通じて、講義・演習内容やカリキュラムをアップデートする仕組みを構築する。</p>

### 情報メディア学専攻

修士課程	<p>○現在の産業構造に対応できるだけでなく、必要とされる先端情報メディア技術、新たな情報産業の創出に適合することができる人材を育成する。そのため、「ソフトウェア科学分野」、「メディア工学分野」、「情報システム分野」を中心的な研究対象分野として位置づけ、他専攻科目を含めた分野の異なる多数の特論科目（16単位以上修得）とともに、研究指導教員が担当する演習科目（演習Ⅰ・Ⅱ、8単位）と特別研究（2年間にわたり8単位）を設け、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>○特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。</p> <p>○カリキュラムはFD活動等を通じて、社会の要請に応えられるように常に見直している。</p> <p>○学部における学修の成果を基礎にして、その専門領域の学修の一層の深化をはかり、豊かな見識と専門知識を備えられるように教育課程を整備する。</p>
博士後期課程	<p>○理・工学領域に立脚した情報技術およびメディア技術をベースに、現在および将来の産業と社会を牽引する新たな技術・新たな価値を創出することができる人材を育成する。そのため、専門分野に関する特別講義と研究指導教員が担当する特別研究（3年間にわたり12単位）を設け、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>○特別研究の成果を博士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。</p> <p>○カリキュラムはFD活動等を通じて、最新の科学技術に対応するように改善を行う。</p> <p>○研究指導体制の一貫性・継続性を保ち、修士課程における学修の成果をさらに発展させられるように教育課程を整備する。</p>

環境ソリューション工学専攻

修士課程	<p>○環境問題の発生源としての人間活動とその背景、および問題となる現象のメカニズムについて幅広く理解できること、フィールドワークにより観測された様々な事象を理解・解釈し、「共生」の観点から再構築できること、ならびに専門分野の枠にとらわれず、環境諸問題の解決に向けた柔軟な思考を有することのできる人材を育成するため、人間の諸活動から生じる環境問題について工学的な視点から研究を進めてきた「エコロジー工学」と、生物および自然のメカニズムや自然と人との関わり合いについて理学・農学的な視点から研究を進めてきた「生態環境マネジメント」の両分野の専攻科目に加え、他専攻科目を含めた分野の異なる多数の特論科目（16単位以上修得）とともに、研究指導教員が担当する演習科目（演習Ⅰ・Ⅱ、8単位）と特別研究（2年間にわたり8単位）を設け、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>○研究指導教員の指導を受けて特別研究を二年間にわたって計画的に遂行することが求められるが、一年次終了時点において専攻全教員の参加の下で中間報告会を実施し、進捗状況の報告と研究計画の見直しについて審査を課す。最終的には特別研究の成果を修士論文として提出させ、その審査および最終試験に合格することを求める。</p> <p>○専攻内で開催される定期的なFD会議や授業アンケートの結果を踏まえつつ、社会の要請に応えられるようカリキュラムは常に見直している。</p> <p>○環境技術英語特論の実施を通じて英語による実践的な情報収集およびコミュニケーション能力の向上、ならびに少人数教育、情報機器を活用した講義、野外演習を組み合わせた演習科目などを取り入れることで、専門領域の学修の一層の深化をはかり、豊かな見識と専門知識を備えられるように教育課程を整備する。</p>
博士後期課程	<p>○既存の公害・環境問題の解決に貢献してきた法律・行政・技術に関する幅広い知識を有すること、ならびに人間社会のあるべき姿を提示するための生態学的知識と問題解決のための手段を選択するための工学的センスを身につけた人材を育成するため、専門分野に関する特別講義と研究指導教員が担当する特別研究（3年間にわたり12単位）を設け、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>○研究指導教員の指導を受けて、専門分野における先端研究の動向について専門分野での一研究者としての立場から、専攻教員とともに情報を収集し、共通理解を深めるとともに問題点や解決すべき課題の発見をするための特別講義を通じて討議の機会を設ける。将来専門分野の技術開発部門において指導的な立場に立つことを期待し、科学者・技術者コミュニティの一員として接するとともに、有益な知見を互いに共有できる双方向のコミュニケーションの場を用意する。エコロジー工学系分野においては、分野横断的な先端研究事例の知見集積を行い、技術者として求められる客観的な思考および表現力を高め、環境に関わる上での自己の哲学を研鑽するよう指導を行う。生態学分野においては、学外の専門家と意見交換することで、研究分野における自らのスタンスを明確にすることを目的として、関連分野の学協会活動への積極的な参加を奨励する。</p> <p>○専攻内で開催される定期的なFD会議や授業アンケートの結果を踏まえつつ、最新の科学技術に対応するように常にかリキュラムの改善を行う。</p> <p>○研究指導体制の一貫性・継続性を保ち、修士課程における学修の成果をさらに発展させられるように教育課程を整備する。</p>

## 2010年度 学年暦 (理工学研究科)

	日	月	火	水	木	金	土			日	月	火	水	木	金	土		
4月					1	2	3	1 学年始 2 入学式 (瀬田) 2~8 履修指導期間 7~8 履修登録期間(D) 8~13 履修登録期間(M) 9 第1学期授業開始 12~14 研究題目届・指導教員選定届提出期間(MD) 21 ご生誕法要 (瀬田) 29 昭和の日(授業実施日)	10月					1	2	11 体育の日 (授業実施日) 18 報恩講 (全学終日休講) 21 ご生誕法要 (瀬田) 30、31 龍谷祭 (瀬田) (30 全学終日休講)		
	4	5	6	7	8	9	10			3	4	5	6	7	8		9	
	11	12	13	14	15	16	17			10	11	12	13	14	15		16	
	18	19	20	21	22	23	24			17	18	19	20	21	22		23	
	25	26	27	28	29	30				24	25	26	27	28	29		30	
5月							1	3 憲法記念日 4 みどりの日 5 こどもの日 19 降誕会 (午後休講) 21 創立記念日・降誕会 (全学終日休講) 22 降誕会 (瀬田) (全学授業実施日)	11月							3 文化の日 5~7 龍谷祭 (深草) (5、6全学終日休講)		
	2	3	4	5	6	7	8			7	8	9	10	11	12		13	
	9	10	11	12	13	14	15			14	15	16	17	18	19		20	
	16	17	18	19	20	21	22			21	22	23	24	25	26		27	
	23	24	25	26	27	28	29			28	29	30						
6月			1	2	3	4	5	14~18 履修辞退受付期間 18 9月修了者修士論文審査願提出日 21 9月修了者博士論文概要・博士論文審査願提出日 21 ご生誕法要 (瀬田) 6 9月修了者博士論文提出日 17 集中補講日 (1/2) 19 海の日 (授業実施日) 21 ご生誕法要 (瀬田) 22 9月修了者修士論文提出日 22~23、26~8/3 第1学期試験期間 24 集中補講日 (2/2) 4~9/10 夏期休業 4~10 集中講義 I 11~18 一斉休暇	12月					1	2	3	4	6 修士論文審査願提出日 (M2) 博士論文概要及び博士論文審査願提出日 (D) 21 ご生誕法要 (瀬田) 23 天皇誕生日 (授業実施日) 月曜日13回分 24、27~28 集中補講日 29~1/5 冬期休業 29~1/5 一斉休暇
	6	7	8	9	10	11	12			5	6	7	8	9	10	11		
	13	14	15	16	17	18	19			12	13	14	15	16	17	18		
	20	21	22	23	24	25	26			19	20	21	22	23	24	25		
	27	28	29	30						26	27	28	29	30	31			
7月					1	2	3	21 ご生誕法要 (瀬田) 6 9月修了者博士論文提出日 17 集中補講日 (1/2) 19 海の日 (授業実施日) 21 ご生誕法要 (瀬田) 22 9月修了者修士論文提出日 22~23、26~8/3 第1学期試験期間 24 集中補講日 (2/2) 4~9/10 夏期休業 4~10 集中講義 I 11~18 一斉休暇	1月							1	1 元日 6 講義再開 博士論文提出日 10 成人の日 19 授業終了 20~2/1 第2学期試験期間 28 修士論文提出日 (M2)	
	4	5	6	7	8	9	10			2	3	4	5	6	7	8		
	11	12	13	14	15	16	17			9	10	11	12	13	14	15		
	18	19	20	21	22	23	24			16	17	18	19	20	21	22		
	25	26	27	28	29	30	31			23	24	25	26	27	28	29		
8月	1	2	3	4	5	6	7	22~23、26~8/3 第1学期試験期間 24 集中補講日 (2/2) 4~9/10 夏期休業 4~10 集中講義 I 11~18 一斉休暇	2月			1	2	3	4	6	2/2~3/31 春期休業 11 建国記念の日 入試終了2日後から3日間 間追試験期間 (予定) 15~17 博士論文公聴会・口述試験(D) 修士論文審査・公聴会(M2) ※入試日程 (一般B、大学院春期) との関係により変更する場合あり	
	8	9	10	11	12	13	14			6	7	8	9	10	11	13		
	15	16	17	18	19	20	21			13	14	15	16	17	18	20		
	22	23	24	25	26	27	28			20	21	22	23	24	25	27		
	29	30	31							27	28							
9月			1	2	3	4	30~9/11 集中講義 II 11 第2学期開始 11~22 履修指導期間 17 9月学位記授与式・入学式 20 敬老の日 23 秋分の日 24 第2学期授業開始 24、27 履修登録修正期間	3月			1	2	3	4	5	18 学位授与式 (瀬田) 21 春分の日 31 学年終		
	5	6	7	8	9	10			11	6	7	8	9	10	11		12	
	12	13	14	15	16	17			18	13	14	15	16	17	18		19	
	19	20	21	22	23	24			25	20	21	22	23	24	25		26	
	26	27	28	29	30					27	28	29	30	31				

	授業日
	補講期間
	定期試験

(注) ※ご生誕法要は4月、6月、7月、10月、12月のそれぞれ21日の12:15~13:15に行われます。  
 2講時の授業終了を15分繰り上げて実施します。  
 ※その他詳細については、理工学研究科掲示板で伝達します。

## 2010年度 学生定期健康診断日程表(理工学研究科)

対象学年	性別	月日	受付時間	受検学舎	健診項目
大学院生	男性	4月5日(月)	13:00～16:30	瀬田学舎 4号館 1階	身長 体重 尿検査 問診 内科診察 (必要時) 視力
		4月7日(水)	9:00～12:30		
	女性	4月5日(月)	9:00～12:30		
		4月7日(水)	13:00～16:30		

※健康管理カード(問診票)・尿容器は履修説明会時に配布します。詳細は、ホームページ、ポータルサイトで案内しますので確認してください。

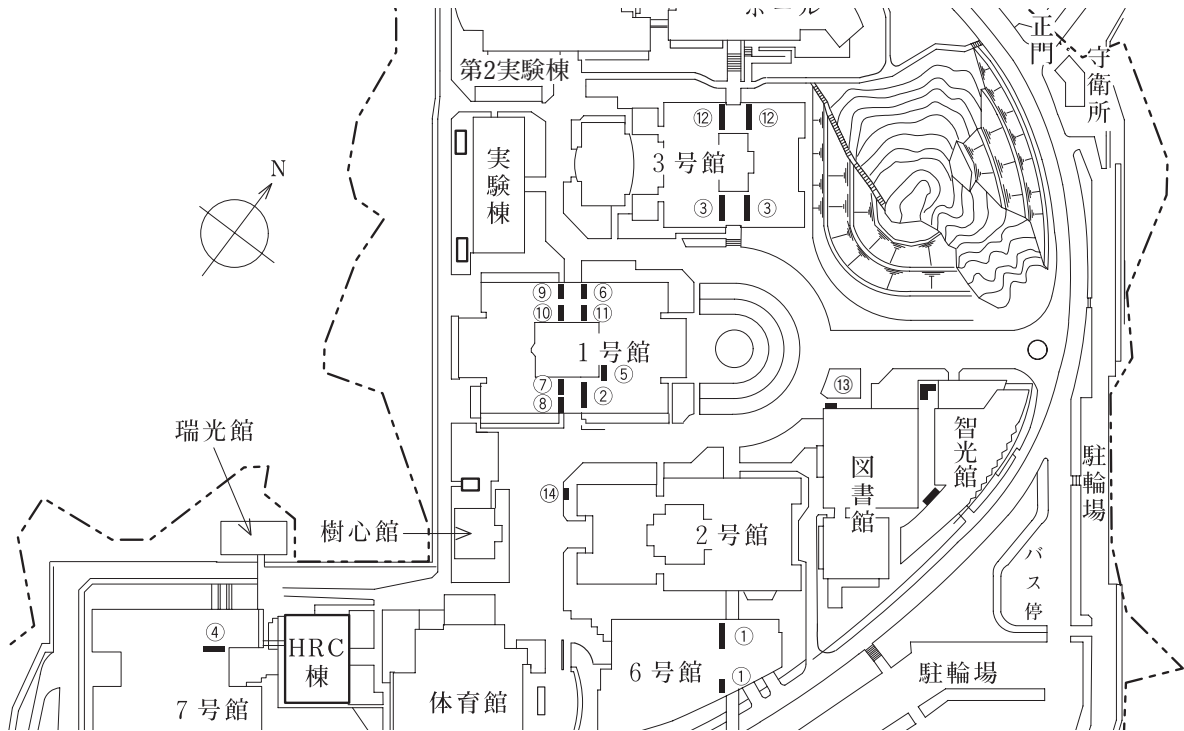
### 注意事項

1. **学生証**を忘れず持参のこと。
2. 健診は混雑が予想されます。**受付時間内の早め**に受付を済ませること。
3. 指定日時に受検できない場合は、**他学部 of 同学年・同性の時間**に受検し、未受検のないようにすること。
4. 服装は、無地でボタン・金属等のないTシャツとし、アクセサリーはつけないで受検すること。
5. 貴重品は各自が責任もって管理すること。
6. 健康管理カード(問診票)・採尿容器は、健康診断前日までに学部・保健管理センター窓口にとりに来ること。
7. 受験当日、健康管理カード(記入しておくこと)・尿容器(採尿した)を持って受付すること。  
※受付後に、採尿することのないように!
8. この期間中に健康診断を受検しないと、2010年度中の診断書の発行はできません。
9. 社会人等で職場などの定期健康診断(本学における実施項目を含んでいるもの)を受検している場合は、その結果のコピーを提出することによって受検に替えることができます場合がありますので、保健管理センターに相談すること。

# 大学からの連絡・通知の掲示

円滑な学生生活を送るために必要な情報が伝達されます。

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行われます。掲示を見落としのために後で支障をきたさないよう、**大学に来たらまず掲示板を見る習慣をつけましょう。**電話による問い合わせには、一切応じません。



## 掲 示 板

### 学部掲示板

大学全般に関する連絡

学内行事・窓口業務についての連絡・呼び出し・その他

授業に関する連絡

授業・休講通知・教科についての一般事項  
定期試験・追試験に関する連絡

- ①…社会学部
- ②…理工学部・理工学研究科
- ③…国際文化学部
- ④…理工学部（補助的運用）
- ⑤…理工学部（臨時的運用）

学生部（瀬田）、教学部（瀬田）

- ⑥奨学金
- ⑦学生生活
- ⑧教職関係

キャリア開発部（瀬田）掲示板

- ⑨インターンシップ関係
- ⑩就職ガイダンス関係
- ⑪就職・資格講座等に関する連絡

国際交流関係掲示板 ⑫

図書館関係掲示板 ⑬

宗教部専用掲示板 ⑭

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により、掲示内容や掲示板の設置場所を変更する場合があります。

…登校したら掲示板を  
下校前にも掲示板を…

### 休講・補講・教室変更情報について

休講・補講・教室変更情報については、掲示板以外に本学のポータル上でも公開しています。アクセス方法等については、以下の事項をご参照ください。

(1) アクセス方法 <パソコン用>

本学ホームページ (<http://www.ryukoku.ac.jp/>) の「ポータルログイン」からアクセスしてください。

ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

<携帯電話用>

携帯電話用ポータルの利用には初回のみパソコン用ポータルから「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。設定方法は、パソコン用ポータルサイトをご覧ください。設定完了後、URLが自動的に通知されます。

(2) 公開の範囲 本学開講科目

(3) 公開の期間 <パソコン用>

休講：休講日を含めて30日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて30日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

<携帯電話用>

休講：休講日を含めて3日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて3日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

(4) 注意事項 ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。

・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。

※ポータル上での公開情報はあくまでも補足的なものです。必ず理工学研究科の掲示板で確認するよう心がけてください。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも実施しています。パソコン用ポータルの「プロフィール設定」で設定可能です。



# 目 次

はじめに

理工学研究科の「教育理念・目標」「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

2010年度 学年暦（理工学研究科）

2010年度 学生定期健康診断日程表（理工学研究科）

大学からの連絡・通知の掲示

---

## [教育課程]

理工学研究科の教学理念と人材育成の目標	1
Ⅰ. 履修方法および開設科目	16
Ⅱ. 学位の取得	33
Ⅲ. 龍谷大学大学院理工学研究科修士課程・博士後期課程1年修了制	34
Ⅳ. 龍谷大学大学院理工学研究科研究指導要項	35
Ⅴ. 龍谷大学大学院理工学研究科学位論文審査等規程	37
Ⅵ. 教職課程	39
Ⅶ. 龍谷大学大学院理工学研究科学生の学部科目履修に関する内規	40
Ⅷ. 研究生要項	41
Ⅸ. 龍谷大学大学院理工学研究科特別専攻生規程	42
X. 本願寺派教師資格課程	43
XI. 特別研修講座	44

---

## [学修生活]

Ⅰ. 履修登録	47
Ⅱ. 試験	51
Ⅲ. 学籍の取り扱い	54
Ⅳ. 授業休止の取扱基準	57
Ⅴ. 窓口事務	58
Ⅵ. 留学	62
Ⅶ. 通学について（自転車・バイク・自動車）	64
Ⅷ. 保健管理センター利用について	65

---

## [シラバス]

Ⅰ. 修士課程	69
Ⅱ. 博士後期課程	125

---

## [付 録]

教員名簿	142
瀬田学舎近隣医療機関	144
瀬田学舎見取図	147



# 教 育 課 程



## 理工学研究科の教学理念と人材育成の目標

龍谷大学大学院理工学研究科は、日本の仏教系大学において初めての自然科学系大学院であり、本学の設立基盤である仏教の思想を基礎に置き高度の専門知識を有する科学技術者を育成し、日本の社会に貢献すると共に、科学技術のあるべき道に導く指導者を育てることを教学理念としています。

各教員の専門を生かした特論を履修することによって、高度な専門知識を修得すると同時に、現象の捉え方、解釈の仕方など、科学的なものの考え方を身につけることができます。また、成績が優れ勉学意欲の高い学生には、学部においても大学院科目の単位を一部先行取得する制度を設け、学生のやる気を引き出す工夫をしています。

自然界の事物や現象の解明に重点を置く理学と、それらの研究成果を応用して発展する工学の両者を融合させた研究を推進しており、研究活動を通じて、技術ばかりではなく人間性をも高める教育を積極的に推進しています。特に最近ではIT分野の研究活動にも重点が置かれています。そうした情報分野と、各教員の専門による幅広い分野の基礎科学・工学を複合した研究を通じ、社会の持続的発展と福祉向上に寄与できる人材の育成を目指しています。

現在、理工学研究科には「数理情報学」、「電子情報学」、「機械システム工学」、「物質化学」、「情報メディア学」、「環境ソリューション工学」の6専攻を開設しています。教育・研究のスタッフの充実と設備・機器の拡充に力を注いでおり、近年は一般企業や諸外国の研究機関との研究交流も積極的に行っています。

本学附置研究所の1つである科学技術共同研究センター、文部科学省の助成を得て設立されたハイテク・リサーチ・センター、古典籍デジタルアーカイブ研究センター、里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センターなど多くの研究施設において、種々の分野で先端的な学術研究活動を進めてきました。また、REC(Ryukoku Extension Center)を通じた産学連携活動は、研究成果の社会への還元やベンチャー企業の育成に役立っています。このようなベンチャー企業の中には理工学研究科の修了生が設立したものもあり、修了後の支援も行っています。

社会人として研究業績のある人には、博士後期課程に「高度専門研究特別講義」を置き、博士論文の指導を密に行うことによって短期に学位を取得できるよう支援する制度も設けており、研究能力のある社会人に自信を与え、社会に対する一層の貢献ができるよう支援しています。

## 数理情報学専攻 教育理念・教育目標

大学院では、高度の専門的知識の習得を目指し、学部で身につけた知識や論理をより深めていくとともに、新たな課題の発見やその解決に向けて挑戦します。そして、創造的活動を自律的に進めることで、将来社会で直面するあらゆる困難に立ち向かえるような実力を身につけていきます。

数理情報学専攻では、数理解析、応用数理、情報科学の3つの分野に分かれており、それぞれ講義や演習、少人数セミナーを通じて、より専門性を高めていきます。

### ■数理解析分野

高度な解析学や幾何学、代数学を学び、それらを通じて論理や厳密性、また新しい数理的手法を習得するとともに、新たな数理解析の世界を切り開いてゆく。

### ■応用数理分野

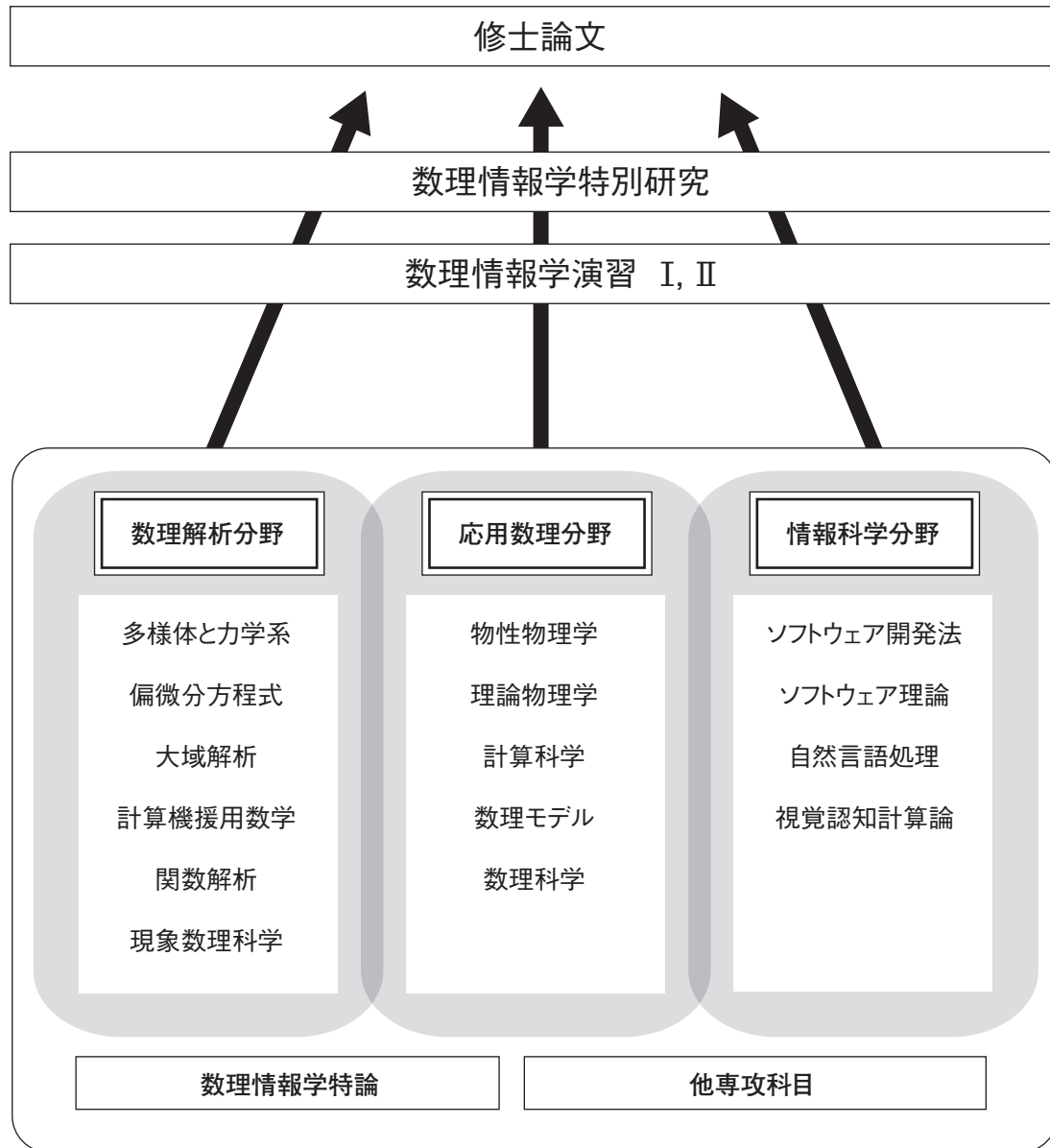
物性物理学や非線形科学などの新しい解析手法をマスターし、自然や社会の複雑現象をモデル化しシミュレーションをすることで、その解明や実世界への応用をめざす。

### ■情報科学分野

ソフトウェア開発や情報処理の高度な理論を習得し、流行に左右されない実力を身につけ、情報社会におけるIT技術を根底から支え、また新技術の開発による革新をめざす。

以上を通じて、高度な専門性や技術力を備えたサイエンティストやエンジニアの養成を目標としています。そして、全体的な教育方針として、スペシャリストとジェネラリストのバランスを重視しています。専門性も重要ですが、数理情報学専攻の一つの特徴として、上記3分野を融合して学べることが挙げられます。これにより、自らの得意分野を深めるとともに、全体的な視点から物事を見渡すことにより様々な角度からの問題解決能力を身につけることが出来ます。時には専門の枠にとらわれずに発想することで、全く新しい解決策を提案できるよう目指します。さらに課題探求においてもこのスペシャリストとジェネラリストのバランス感覚を身につけることにより、新たな問題発見につながることを期待されます。

# 数理情報学専攻フローチャート



# 電子情報学専攻 教育理念・教育目標

## 1. 高度情報化社会を担い支える電子情報通信工学の3分野の高度な技術者の育成

電子情報通信分野の急速な進歩に柔軟に対応できるように、電子工学、電子通信工学、情報通信工学の3分野に分け、しかも総合的かつ高度な教育を行います。

「電子工学」分野では、半導体を中心とする電子材料ならびに、電子情報通信に用いられる各種ハードウェアの要素技術に止まらず、機能性電子デバイスの開発、および境界領域を含む電子工学の広い分野の研究開発を行う能力を育成します。

「電子通信工学」分野では、新しい高周波デバイスと回路技術を駆使した通信機器の開発、ならびにアンテナと電波伝播の新しい展開、および次世代の高周波・超広帯域通信システム等の広い分野の研究開発を行う能力を育成します。

「情報通信工学」分野では、現代社会の基盤となっているマルチメディア情報通信システムを支える情報理論、情報ネットワーク構成技術、情報セキュリティ技術、ならびにマルチメディア生成技術等の広い分野の研究開発を行う能力を育成します。

さらに、他の専攻と同様に、電子情報学専攻の教育・研究分野は学際的であり、自専攻の特論講義の受講のみならず、関連する他専攻の講義を受講することも勧めます。

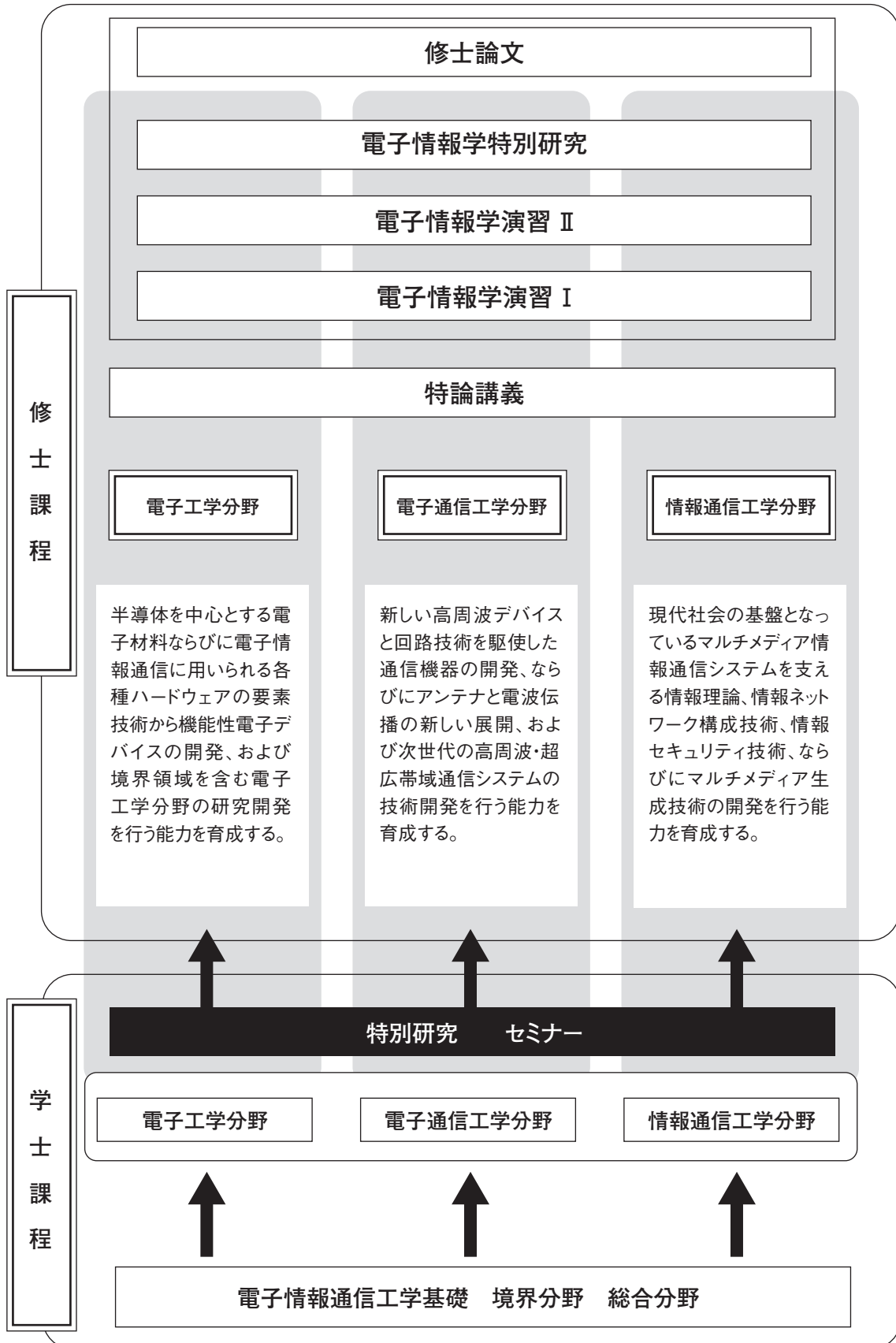
## 2. 自ら問題解決をする研究・開発能力育成の成果を内容の充実した修士論文に結実

研究室ゼミナールの形態を取る「電子情報学演習Ⅰ・Ⅱ」により特論講義を身につけたものにするのみならず「電子情報学特別研究」において、修士論文指導教員の指導の下に最新かつ未解決の問題に取り組み、問題解決に必要な論文の講読、英語で書かれた論文の講読などの訓練を含め、自ら解を見出していく理論的ならびに実験的方法を身につけます。

さらに、その結果得られた新しい研究成果を、専門分野の国内外の研究発表会において公表することを目指します。

電子情報学専攻の全課程を通して、電子情報通信分野の研究開発を中心として、現在の情報化社会の広範な分野できわめて有能な人材として活躍できる独創的能力を養います。

# 電子情報学専攻フローチャート



## 機械システム工学専攻 教育理念・教育目標

ハードとソフトの均衡のとれた基礎力と応用力を身につけた地域・国際社会に貢献できる技術者、研究者の育成を教育理念とする。

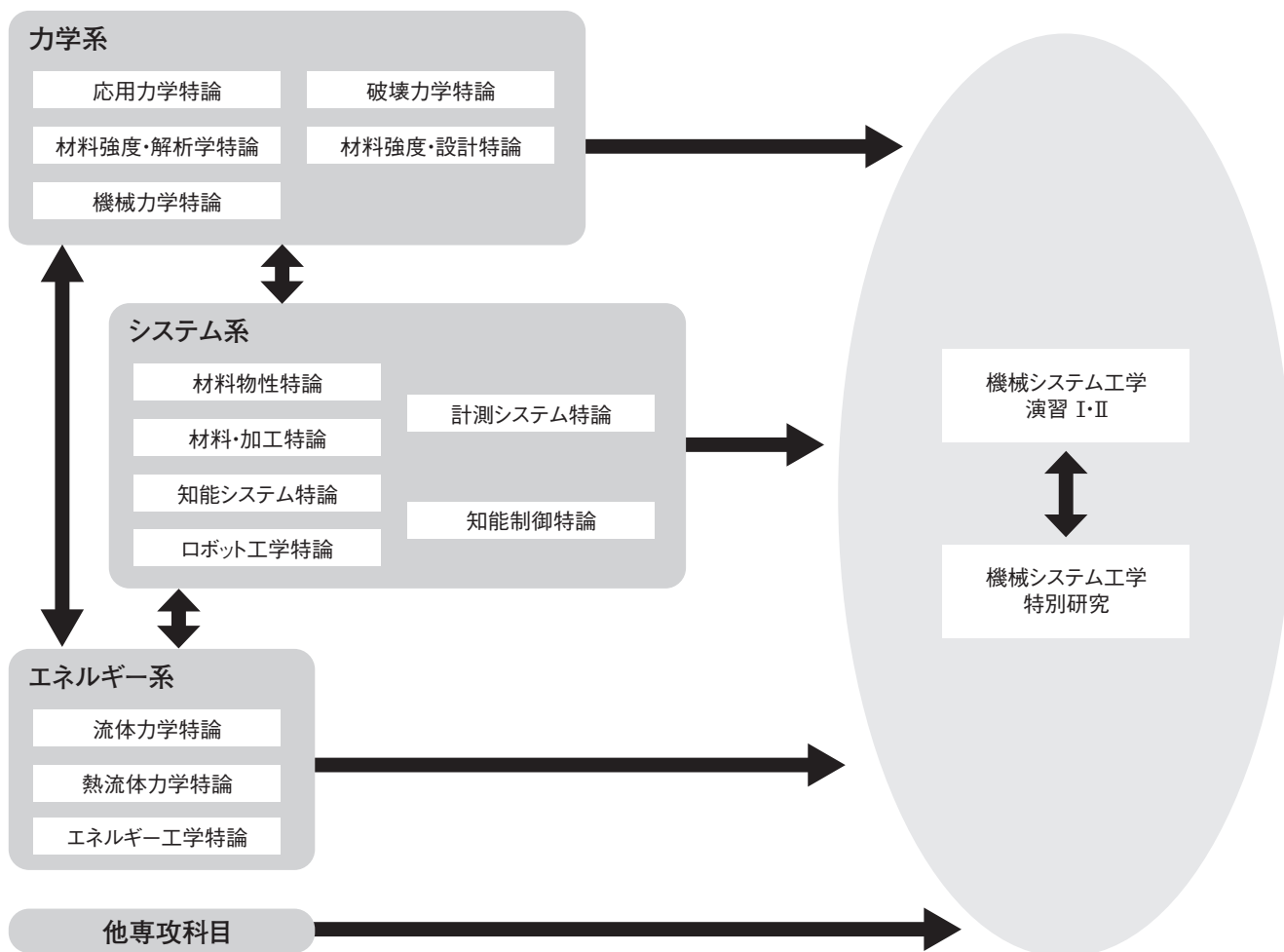
高度な機械システムの構築には、基礎的な機械工学に加えて材料工学、電子工学、制御工学、情報工学、システム工学などの幅広い知識を持ちながら、高度で深く掘り下げた知識が必要である。学士課程教育で培った知識を基礎に、これらを一層発展、応用できる高い素養を持った技術者、研究者の養成を目指して、機械システム工学専攻は、力学系、エネルギー系、システム系の三系列で構成し、三系列における専門的な立場からの教育と研究を通じて深く掘り下げた知識の修得と創造力の育成を計り、指導教員間の密接な連携により機械システム工学専攻としての幅の広い知識の修得を目標とする。

力学系では、応用力学、材料強度学、機械力学などを深く学び、安全で信頼性が高く経済的な機械システムの構築において中心的な役割を果たす技術者、研究者の養成に重点を置いて教育と研究を行う。安全で信頼性の高い機械、構造物の設計、製作には実働条件下での応答解析と強度評価が強く求められる。「機械力学特論」、「応用力学特論」、「破壊力学特論」では、外力による機械の応答、弾性論や塑性力学、破壊力学などを学ぶことにより、応力・ひずみ状態を評価できるようにする。「材料強度・設計特論」、「材料強度・解析学特論」では、材料強度を深く理解し、金属材料や複合材料に対する強度設計手法や解析手法について学修する。

エネルギー系では、流体力学、熱力学、熱工学を基礎に、それらを総合化したエネルギー変換工学を構築し、効率的で地球環境に優しいエネルギー技術開発が行える技術者、研究者の養成を強く意識した教育と研究を行なう。流体力学や熱流体工学などを総合化した新しい学問体系によるエネルギー関連技術が学べるように、「流体力学特論」では、流体力学の基礎理論、数値流体力学を学修し、「熱流体工学特論」、「エネルギー工学特論」では、熱流体力学の基礎理論とエネルギーの有効利用に必要な熱力学的基礎、自然エネルギーの基礎などについて地球環境に優しいエネルギー技術開発の観点から学修する。

システム系では、機能材料とマイクロエレクトロニクス、センシング・アクチュエータ技術の発達により作り出される新しい機械システム、人工知能の応用による人間に優しいシステム作りに役立つ技術、研究者の養成をめざした教育と研究を行う。人間に優しいシステムの開発に、機能材料、エレクトロニクス技術、センシング・アクチュエータ技術、人工知能などの総合化が強く期待されていることに鑑み、「材料物性特論」「材料・加工特論」により機能材料の組織と材料加工との関連を学修する。「知能制御特論」では、現代制御理論と演習を行い、「知能システム特論」、「ロボット工学特論」では、ロボットや大規模システムを知能システムとして機能させるための基礎原理を学修する。さらに、「計測システム特論」では、計測システムの基礎を深く身につけ、機械システム工学への応用技術を修得する。

# 機械システム工学専攻フローチャート



## 物質化学専攻 教育理念・教育目標

理工学研究科物質化学専攻においては、「東洋の倫理観や考え方を基に、グローバルに（世界の水準をもって地域に対して）貢献し得る専門知識・応用能力を身に付けた高度な技術者を養成すること」を人材育成の目標として掲げている。

基本的に、基礎となる学士課程の理工学部物質化学科と教育理念を共有している。加えて、大学院修士課程教育においては、学士課程で修得した知識・能力に基づき、それらを敷衍・高度化したより広範で高い知識・能力を身につけることを目標としている。また、それらの広範で高い知識・能力に立脚して下された的確な判断に基づいて行動し、さらにその行動を習慣とすることを目標としている。

以下に、本専攻における学習・教育目標を記す。

### (A) 共生・循環

生物・無生物を問わず、宇宙にある“もの”は全て平等であるとの考えに基づき、エネルギーや資源を利用する人間の視点に執着することなく、地球上における“もの”の共生や循環の考え方に基づいた思考法と行動をとる習慣と能力を身につける。

### (B) グリーンケミストリー

共生や循環の発想に基づき、環境にやさしい工業製品の製造・開発を始めとする「グリーンケミストリー」の概念に基づいた思考法と行動をとる習慣と能力を身につける。

### (C) 工業倫理（技術者倫理）

物質化学の知識・能力を「何のために、どのように使うか」を判断するための高い倫理観と健全な常識を身につけ、それに基づいて適切に判断し、発言・説明する習慣と能力を身につける。

### (D) 持続的学習と自己発現能力

社会や科学技術の動向に常に眼を配り、自分の知識・能力をアップデートする習慣と能力を身につけ、それによって社会における自分にふさわしい活躍分野を自分で見出し、あるいは開拓していく習慣と能力を身につける。

(D1) 関連分野や異分野をはじめとする科学技術の広い範囲にわたる動向を常に認識し、自分の知識・能力をアップデートすることができるようになる。

(D2) 良好な社会・人間関係を構築することにより、自分の知識・能力にふさわしい活躍の場を見出し、開拓していくことができるようになる。

### (E) 専門知識と問題解決能力

学士課程で身につけた科学の基礎知識、論理的思考法ならびに柔軟な発想力を基に、高度な専門知識とその応用力を身につけ、それらを駆使して科学技術に関する問題を分析・整理し、解決に導く習慣と能力を身につける。

(E1) 科学の基礎・原理・原則に対する深い知識を身につけ、それらに基づいた論理的思考ができるようになる。

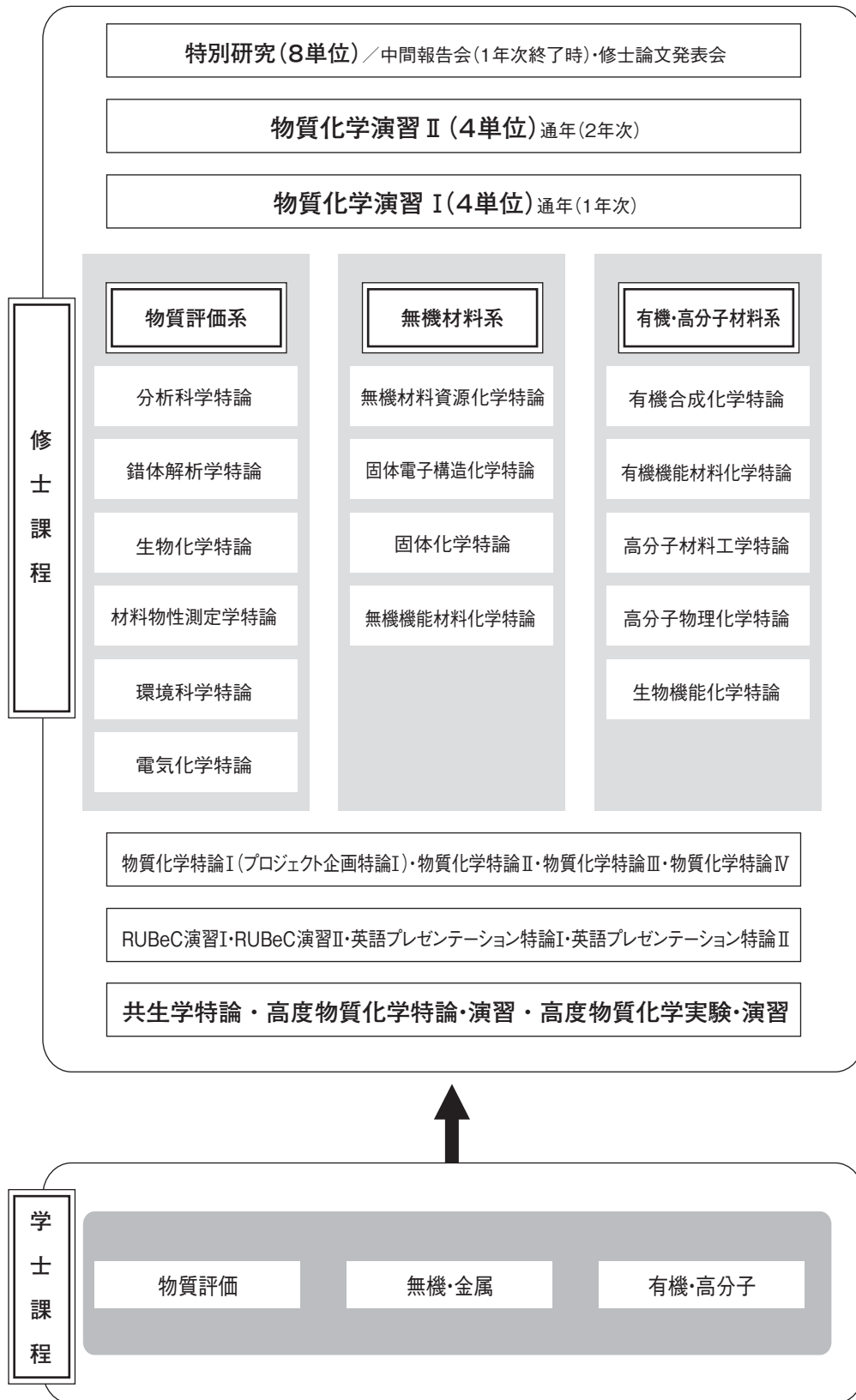
(E2) 論理的思考に基づき、科学技術に関する問題を分析・整理し、想定される課題を提示できるようになる。

(E3) 柔軟な発想に基づき、課題を解決するための実験・研究計画を立案し、それを実行することにより、与えられた制約下で問題を解決に導くことができるようになる。

### (F) 国際的コミュニケーション能力

自分のかかわる科学技術の国際的に占める位置を認識し、国内外を問わず、その内容を論理立てて、簡潔に分かりやすく、日本語ならびに英語で伝達する習慣と能力を身につける。

# 物質化学専攻フローチャート



## 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育目標	1年	2年
(A) 共生・循環	◎物質化学特別研究 ◎共生学特論	
(B) グリーンケミストリー	◎物質化学特別研究 ◎共生学特論 ◎高度物質化学特論・演習	
	分析科学特論 錯体解析学特論 材料物性測定学特論 固体電子構造化学特論 無機機能材料化学特論 有機機能材料化学特論 高分子物理化学特論 電気化学特論	環境科学特論 生物化学特論 無機材料資源化学特論 固体化学特論 有機合成化学特論 高分子材料工学特論 生物機能化学特論
(C) 工業倫理	◎物質化学特別研究 ◎共生学特論	
	○物質化学特論Ⅰ (プロジェクト企画特論Ⅰ) ○物質化学特論Ⅲ	○物質化学特論Ⅱ ○物質化学特論Ⅳ
(D) 持続的学習と自己発現能力	◎物質化学特別研究 ◎高度物質化学特論・演習 ○物質化学特論Ⅰ (プロジェクト企画特論Ⅰ)	
(E) 専門知識と問題解決能力	◎物質化学特別研究 ◎高度物質化学特論・演習 ◎高度物質化学実験・演習	
	◎物質化学演習Ⅰ	◎物質化学演習Ⅱ
	分析科学特論 錯体解析学特論 材料物性測定学特論 固体電子構造化学特論 無機機能材料化学特論 有機機能材料化学特論 高分子物理化学特論 電気化学特論	環境科学特論 生物化学特論 無機材料資源化学特論 固体化学特論 有機合成化学特論 高分子材料工学特論 生物機能化学特論
(F) 国際的コミュニケーション能力	◎物質化学特別研究	
	◎物質化学演習Ⅰ	◎物質化学演習Ⅱ
	RUBeC演習Ⅰ	△RUBeC演習Ⅱ
	英語プレゼンテーション特論Ⅰ	英語プレゼンテーション特論Ⅱ

◎は必須科目、○は選択必須科目、他は選択科目、△は随意科目 他専攻科目は省略

- ・「物質化学特別研究」は「特別研究（授業分）」（「テクニカルライティング」を含む）と「特別研究（研究分）」からモジュール化されている。
- ・特論および演習については、1科目あたり、授業・自習等を含めた標準的な学習時間（学習負荷時間）は90時間である。
- ・「物質化学特別研究」の学習負荷時間は2年間で最低1800時間である。「物質化学特別研究」のうち、「特別研究（授業分）」については、授業・自習等を含めた標準的な学習時間（学習負荷時間）は2年間で360時間である。
- ・各分野の特論科目のうち2科目は自分の所属する分野の科目をとること。
- ・各分野の特論科目のうち1科目は自分の所属する分野以外の科目をとること。



# 情報メディア学専攻 教育理念・教育目標

## (1) 教育理念

情報メディア学専攻は、人・環境にやさしい高度情報化社会が創出されるにあたり、その確固たる基盤の形成に寄与することを目的とする。

この目的を達成するために、現在の産業構造に対応できるだけでなく、必要とされる先端情報メディア技術、新たな情報産業の創出に適合することができるよう、基盤的能力の開発を目指した人材育成に取り組む。また先の目的を達成するために、本専攻は、情報科学を理学と工学の融合領域として捉え、さらに人文科学・社会科学・情報学・認知科学・計算機科学・システム科学・言語学などの諸学問を包摂する学際的科学として展開する。あわせて、多様な学問領域についての学際的教育と、現在の高度情報化社会において産業展開がなされている技術・開発に適合する実践的教育との融合を図る。

情報メディア学専攻が扱う情報・メディア技術は、20世紀の知的所産としてのコンピュータに関する原理に基づいた「コンピュータシステムとソフトウェア科学」、「マルチメディアとして表現された情報の原理」及びこのようなシステムや科学や原理を「知的システムや情報システムに適用する技術」に関わる工学である。また21世紀社会において、これらの技術は、「マルチメディア」、「情報通信システム」、「情報サービス産業の技術基盤」として不可欠なものになっている。さらに産業と社会における構造革新に対しても、情報メディア技術が必要とされている。

情報メディア学専攻では、このような学術と社会的なニーズに応えるために、情報・メディア技術に関する科学・工学に立脚した専門技術者や研究者を養成していく。

今、情報科学は、単一の学問領域に留まらず、様々な学問領域において展開されるようになってきている。本専攻では、理工学的視点における「情報科学」の体系化を図っている。

情報メディア学専攻は、理工学及び人文・社会科学を融合した龍谷大学共通の情報科学の活性化を生み出す原動力となることを目指す。

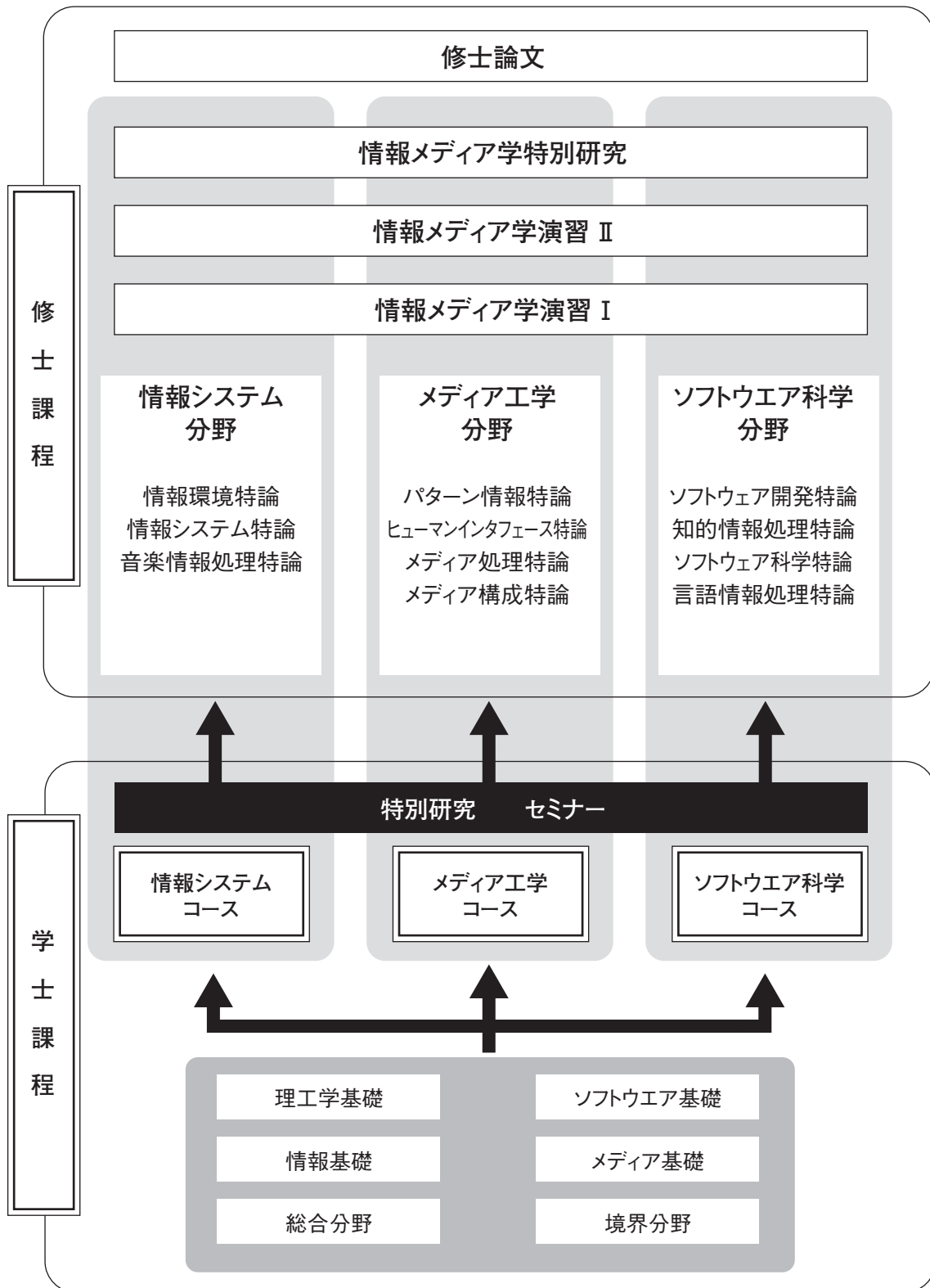
## (2) 教育目標

情報メディア学専攻は、理・工学領域に立脚した情報技術およびメディア技術のスペシャリストの養成をその教育目標とする。具体的には、情報科学・工学全般の知識習得から情報・データ・メディアそのものにわたる教育を展開する。特に、情報科学・情報工学から情報・メディアにアプローチを行うことから、これまでの計算機やネットワークなどの情報処理を行う要素からみれば単なる処理対象でしかない位置づけであった情報・データ・メディア自身を教育の対象とすることが特色となる。

今、情報というキーワードは、ほとんどすべての学問分野・学際領域に関連してきている。そして、組織化されていない情報およびデータの中から有用な情報を抽出し、価値ある情報へと変換・加工する手法には分野を問わず共通する手順が存在する。特に、情報を数理的に解析する手法、それを加工する情報科学の手法には普遍的なものが多い。

情報メディア学専攻では、この情報科学の手法の系統的な教育を行うとともに、ともすれば机上の学問分野と見られがちな情報科学の手法や産業・技術展開を具体的な事例にもとづく教育と実システム化の教育を並行して行うことにより、現在および将来の産業と社会の牽引車となる情報技術およびメディア技術のスペシャリストの養成を行う。

# 情報メディア学専攻フローチャート



## 環境ソリューション工学専攻 教育理念・教育目標

環境を取り巻く諸問題の解決に向けて自発的に取り組み、人間生活と自然環境保全のバランスを保てる人材を、環境工学や生態学の基礎から応用に至る幅広い知識を生かした教育の中で養い、国際社会・地域社会に貢献できる技術者、研究者の育成を、当専攻の教育理念とする。

大きな社会問題として取り上げられる環境問題は、旧来の公害問題から地球環境問題へと規模が拡大し影響が多方面に及ぶだけでなく、原因と結果の対応が不明確であり、限られた学問分野の理解のみでは、解決に向けての取り組みが不十分となっている。問題となっている現場で行われている人間活動やそれを取り巻く背景、現場で生じている現象のメカニズムの幅広い理解が必要となるだけでなく、それらを分析総合して問題解決につなげ、新たな学問分野を構築する柔軟な思考が求められる。このような、問題解決に向けての幅広い理解と柔軟な思考を持つ人材を育てていくことが、当専攻の究極の教育目標である。しかしながら、全てにおいて優れた成果を上げることを最初から目標にするのではなく、まずは既存の一つの学問分野を十分に理解し専門性を深め、幅広い思考や知識に触れることで、このような技術者に近づいていくことを、現実的な教育目標とする。

環境ソリューション工学専攻では、人間の諸活動から生じる環境問題について工学的な視点から研究を進めてきた「エコロジー工学」と、生物および自然のメカニズムや自然と人との関わり合いについて理学・農学的な視点から研究を進めてきた「生態環境マネジメント」の2つの分野を持ち、それぞれ講義や演習、少人数セミナーを通じて、より専門性を高めている。

### ■エコロジー工学

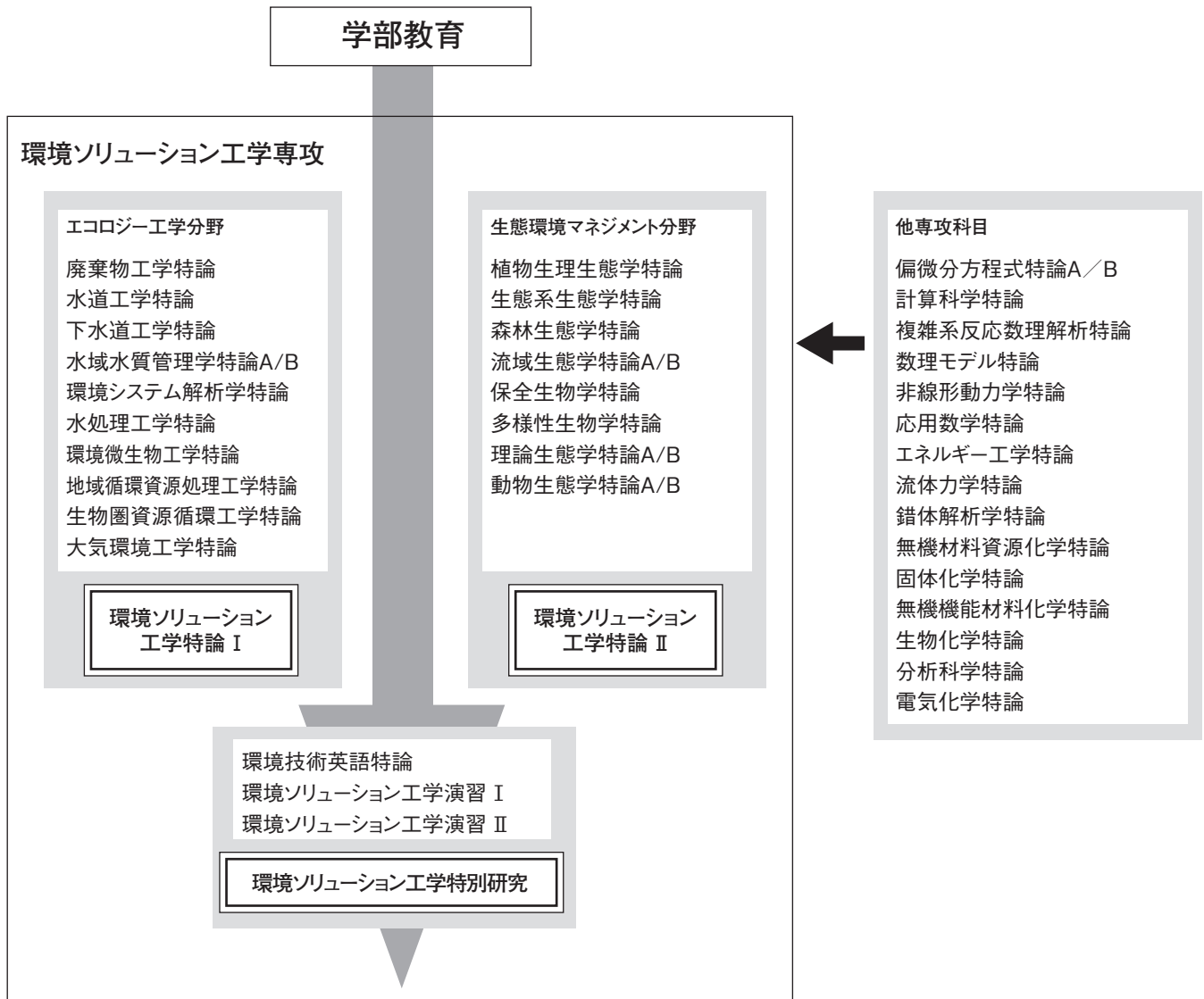
エコロジー工学分野では、物質収支や反応速度論を基に、工学的手法を駆使した環境改善や創造を目指し、近視眼的な発想に基づく改革や改善よりも、中・長期的展望に立脚した技術変化、都市環境施設のあり方を講義し、省資源・省エネルギーといった人の生活で根幹的な条件を全うしつつ、生活価値観の転換を図る発想を研ぎ澄ます教育体系を用意する。

### ■生態環境マネジメント

環境マネジメント分野では、多様性に富み、豊かに組み合わせた自然生態系の共生体系の中で、人が豊かな自然を身近に感知し、それを保全し、創造・利用するための秩序や手法について、現場での現象把握に加え生物間の共生や生態学的システムの解析など、高度な講義を用意する。

以上を通じて、高度な専門性や技術力を備えた科学者、技術者の育成を目標とするが、各分野で学ぶ専門を深めるだけでなく、専門の枠にとらわれない発想を重視し、幅広い知識と経験を基に、広く環境問題をソリューション（解決）する担い手として活躍できるように教育していく。また、理工学部環境ソリューション工学科で取り入れているフィールドワークを重視した教育課程をさらに発展させ、フィールドワークにより観測された様々な事象を理解・解釈し、「共生」の観点から再構築する能力を修得するための実践的教育を行う。その結果、人と自然は一体であるという「共生」の世界観を具現化するリーダー的役割を果たす人材を育成する。

# 環境ソリューション工学専攻フローチャート



# I 履修方法および開設科目

## 1. 履修方法

### 1) 修業年限

- (1) 修士課程 2年以上5年まで
- (2) 博士後期課程 3年以上6年まで

### 2) 履修方法

#### (1) 修士課程

##### ①数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、情報メディア学専攻、環境ソリューション工学専攻

- 特 論 16単位以上（なお、各専攻ごとの開設科目表中の他専攻教員の担当する科目（以下「他専攻科目」）を、専攻ごとに別に定める上限（※）まで、修了要件として履修することができる。）
- 演 習 8単位（指導教員の担当する演習Ⅰおよび演習Ⅱ計8単位を履修すること）
- 特別研究 8単位（2年間にわたり8単位を履修すること）
- 修了要件 上記履修方法により、計32単位以上を履修するとともに、特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査に合格しなければならない。

##### ②物質化学専攻

- 特 論 12単位以上（必修「共生学特論」2単位、他特論10単位以上（RUBeC演習Ⅰを含む）物質化学特論Ⅰ～Ⅳのうち1科目を必ず履修しなくてはならない（2004年度以降入学生対象）。なお、各専攻ごとの開設科目表中の他専攻教員の担当する特論（以下「他専攻科目」）を専攻ごとに別に定める上限（※）まで、修了要件として履修することができる。）
- 演 習 12単位（「高度物質化学特論・演習」「高度物質化学実験・演習」、指導教員の担当する演習Ⅰおよび演習Ⅱを履修すること）
- 特別研究 8単位（2年間にわたり8単位を履修すること）
- 修了要件 上記履修方法により、計32単位以上を履修するとともに、特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査に合格しなければならない。

#### ※他専攻科目の履修について

各専攻ごとの開設科目表中の他専攻科目については、各専攻ごとに以下の上限まで修了要件単位とすることができる。その上限をこえて履修した科目は随意科目とする。

数理情報学専攻	4科目8単位
電子情報学専攻	2科目4単位
機械システム工学専攻	4科目8単位
物質化学専攻	2科目4単位
情報メディア学専攻	4科目8単位
環境ソリューション工学専攻	4科目8単位

なお、他専攻科目を履修しようとする場合は、指導教員の承認を得なければならない。

#### (2) 博士後期課程

- 修了要件 指導教員の指導により専攻する分野の特別研究12単位を修得しなければならない。さらに指導教授の指示を受け特別講義を履修するものとし、その審査及び最終試験に合格しなければならない。なお、在学期間を短縮し修了する場合には、「高度専門研究特別講義」を必修とする。

- 3) 研究科委員会が特に必要と認めるときは、所定の単位のほかにその指定する科目（学部講義等）を履修しなければならない。
- 4) 履修登録は、すべて自己の責任において行うこと。登録の不備や間違いが発見されたときは、当該科目は無効となる。

## 2. 開設科目

### (1) 修士課程 [数理情報学専攻] (2010年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
数理解析	多様体と力学系特論A	1・2	2	教授 理博 國府宏枝	2010年度不開講
	多様体と力学系特論B	1・2	2		
	偏微分方程式特論A	1・2	2	教授 理博 森田善久	2010年度不開講
	偏微分方程式特論B	1・2	2		
	大域解析特論A	1・2	2	兼任教員 理博 小川知之	2010年度不開講
	大域解析特論B	1・2	2		
	計算機援用数学特論A	1・2	2	教授 理博 四ッ谷晶二	2010年度不開講
	計算機援用数学特論B	1・2	2		
	関数解析特論A	1・2	2	教授 理博 松本和一郎	2010年度不開講
	関数解析特論B	1・2	2		
	現象数理科学特論A	1・2	2	森田善久ほか	2010年度不開講
現象数理科学特論B	1・2	2			
応用数理	物性物理学特論	1・2	2	教授 理博 飯田晋司	2010年度不開講 2010年度不開講 2010年度不開講
	理論物理学特論	1・2	2	講師 理博 樋口三郎	
	計算科学特論	1・2	2	教授 理博 池田勉	
	複雑系反応数理解析特論	1・2	2		
	数理モデル特論	1・2	2		
	非線形動力学特論	1・2	2		
	数理科学特論	1・2	2	講師 情報博 阪井一繁	
情報科学	ソフトウェア開発法特論	1・2	2	教授 工博 宇土顯彦	
	ソフトウェア理論特論	1・2	2	准教授 理博 中野浩	
	自然言語処理特論	1・2	2	教授 工博 馬青	
	視覚認知計算特論	1・2	2	講師 工博 高橋隆史	
	数理情報学特論	1・2	2	日詰明男ほか	
	数理情報学演習Ⅰ	1	4		
	数理情報学演習Ⅱ	2	4		
	数理情報学特別研究	1～2	8		
他 専 攻 科 目	応用数学特論			}	電子情報学専攻科目
	電子情報基礎特論				
	電子物性特論				
	情報通信工学特論				
	知能情報特論				
	電子ディスプレイ特論				
	光学特論				
	オートマトン理論特論				
	画像処理特論				
	計算機システム特論				
	パターン情報システム特論				
	情報通信システム特論				
	マイクロ波通信工学特論				
	生体システム特論				
知能システム特論	}	機械システム工学専攻科目			
機械力学特論					
熱流体工学特論					
流体力学特論					
RUBeC 演習Ⅰ	}	物質化学専攻科目	随意科目		
RUBeC 演習Ⅱ					
パターン情報特論	}	情報メディア学専攻科目			
ソフトウェア開発特論					
情報環境特論					
知的情報処理特論					
メディア処理特論					
ソフトウェア科学特論					
言語情報処理特論					
メディア構成特論					
音楽情報処理特論					
ヒューマンインタフェース特論					
情報メディア学特論					
環境システム解析学特論	環境ソリューション工学専攻科目				

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[数理情報学専攻] (2009年度以前入学生適用)

授業科目の名称	配当年次	単位数		担当教員	備考	
		必修	選択			
数理解析	多様体と力学系特論A	1・2		2		2010年度不開講
	多様体と力学系特論B	1・2		2	教授 理博 國府宏枝	
	偏微分方程式特論A	1・2		2		2010年度不開講
	偏微分方程式特論B	1・2		2	教授 理博 森田善久	
	大域解析特論A	1・2		2		2010年度不開講
	大域解析特論B	1・2		2	兼任教員 理博 小川知之	
	固有値問題特論A	1・2		2		2010年度不開講
	固有値問題特論B	1・2		2	教授 理博 四ッ谷晶二	
	関数解析特論A	1・2		2		2010年度不開講
関数解析特論B	1・2		2	教授 理博 松本和一郎		
応用数理	物性物理学特論	1・2		2	教授 理博 飯田晋司	2010年度不開講 2010年度不開講 2010年度不開講
	理論物理学特論	1・2		2	講師 理博 樋口三郎	
	計算科学特論	1・2		2	教授 理博 池田勉	
	複雑系反応数理解析特論	1・2		2		
	数理モデル特論	1・2		2		
	非線形動力学特論	1・2		2		
	数理科学特論	1・2		2	講師 情報博 阪井一繁	
情報科学	ソフトウェア開発法特論	1・2		2	教授 工博 宇土顯彦	
	ソフトウェア理論特論	1・2		2	准教授 理博 中野浩	
	自然言語処理特論	1・2		2	教授 工博 馬青	
	視覚認知計算特論	1・2		2	講師 工博 高橋隆史	
数理情報学特論	1・2		2	日詰明男ほか		
数理情報学演習Ⅰ	1	4				
数理情報学演習Ⅱ	2	4				
数理情報学特別研究	1～2	8				
他専攻科目	応用数学特論				電子情報学専攻科目	
	電子情報基礎特論					
	電子物性特論					
	情報通信工学特論					
	知能情報特論					
	電子ディスプレイ特論					
	光学特論					
	オートマトン理論特論					
	画像処理特論					
	計算機システム特論					
	パターン情報システム特論					
	情報通信システム特論					
	マイクロ波通信工学特論					
生体システム特論						
他専攻科目	知能システム特論				機械システム工学専攻科目	
	機械力学特論					
	熱流体工学特論					
	流体力学特論					
他専攻科目	パターン情報特論				情報メディア学専攻科目	
	ソフトウェア開発特論					
	情報環境特論					
	知的情報処理特論					
	メディア処理特論					
	ソフトウェア科学特論					
	言語情報処理特論					
	メディア構成特論					
	音楽情報処理特論					
	ヒューマンインタフェース特論					
情報メディア学特論						
環境システム解析学特論				環境ソリューション工学専攻科目		

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[電子情報学専攻] (2010年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考	
		必修	選択			
電子工学	電子情報基礎特論	1・2		2	教授 工博 木村 睦 教授 工博 山本伸一 准教授 理博 海川龍治 講師 理博 中川晃成	2010年度不開講 2010年度不開講
	応用数学特論	1・2		2		
	電子ディスプレイ特論	1・2		2		
	量子力学特論	1・2		2		
	電子物性特論	1・2		2		
	数値解析特論	1・2		2		
電子通信工学	光学特論	1・2		2	教授 工博 斉藤光徳	
	オートマトン理論特論	1・2		2	教授 工博 小淵洋一	
	画像処理特論	1・2		2	講師 工博 川上 肇	
	知能情報特論	1・2		2	教授 理博 木村昌弘	
	電磁波計測特論	1・2		2	講師 工博 張 陽軍	
情報通信工学	計算機システム特論	1・2		2	教授 工博 宮下豊勝 教授 工博 中村奉夫 教授 工博 粟井郁雄 教授 工博 村田 正 教授 工博 小堀 聡	2010年度不開講
	パターン情報システム特論	1・2		2		
	情報通信システム特論	1・2		2		
	マイクロ波通信工学特論	1・2		2		
	情報通信工学特論	1・2		2		
	生体システム特論	1・2		2		
他専攻科目	科学技術英語特論・演習	1・2		2	粟井郁雄 ほか	
	電子情報学演習Ⅰ	1	4			
	電子情報学演習Ⅱ	2	4			
	電子情報学特別研究	1～2	8			
他専攻科目	物性物理学特論			}	数理情報学専攻科目	
	計算科学特論					
	数理モデル特論					
	視覚認知計算特論					
	数理科学特論					
	ソフトウェア開発法特論					
	ソフトウェア理論特論					
自然言語処理特論						
他専攻科目	ロボット工学特論			}	機械システム工学専攻科目	
	知能制御特論					
	知能システム特論					
	材料物性特論					
他専攻科目	RUBeC 演習Ⅰ			}	物質化学専攻科目	随意科目
	RUBeC 演習Ⅱ					
他専攻科目	パターン情報特論			}	情報メディア学専攻科目	
	情報環境特論					
	知的情報処理特論					
	音楽情報処理特論					
	ヒューマンインタフェース特論					
	情報メディア学特論					

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[電子情報学専攻] (2009年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考	
		必修	選択			
電子工学	電子情報基礎特論	1・2		2	2010年度不開講 2010年度不開講	
	応用数学特論	1・2		2		
	電子ディスプレイ特論	1・2		2		教授 工博 木村 睦
	量子力学特論	1・2		2		教授 工博 山本伸一
	電子物性特論	1・2		2		准教授 理博 海川龍治
	数値解析特論	1・2		2		講師 理博 中川晃成
電子通信工学	光学特論	1・2		2	教授 工博 斉藤光徳	
	オートマトン理論特論	1・2		2	教授 工博 小淵洋一	
	画像処理特論	1・2		2	講師 工博 川上 肇	
	知能情報特論	1・2		2	教授 理博 木村昌弘	
	電磁波計測特論	1・2		2	講師 工博 張 陽軍	
情報通信工学	計算機システム特論	1・2		2	2010年度不開講	
	パターン情報システム特論	1・2		2		教授 工博 宮下豊勝
	情報通信システム特論	1・2		2		教授 工博 中村奉夫
	マイクロ波通信工学特論	1・2		2		教授 工博 粟井郁雄
	情報通信工学特論	1・2		2		教授 工博 村田 正
	生体システム特論	1・2		2		教授 工博 小堀 聡
	電子情報学演習Ⅰ	1	4			
	電子情報学演習Ⅱ	2	4			
	電子情報学特別研究	1～2	8			
他 専 攻 科 目	物性物理学特論				数理情報学専攻科目	
	計算科学特論					
	数理モデル特論					
	視覚認知計算特論					
	数理科学特論					
	ソフトウェア開発法特論					
	ソフトウェア理論特論					
	自然言語処理特論					
	ロボット工学特論				機械システム工学専攻科目	
	知能制御特論					
知能システム特論						
材料物性特論				情報メディア学専攻科目		
パターン情報特論						
情報環境特論						
知的情報処理特論						
音楽情報処理特論						
ヒューマンインタフェース特論						
情報メディア学特論						

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[電子情報学専攻] (2008年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考	
		必修	選択			
電子工学	電子情報基礎特論	1・2		2	教授 工博 木村 睦 准教授 理博 海川 龍治	2010年度不開講 2010年度不開講
	応用数学特論	1・2		2		
	電子ディスプレイ特論	1・2		2		
	電子物性特論	1・2		2		
電子通信工学	光学特論	1・2		2	教授 工博 齊藤 光徳	
	オートマトン理論特論	1・2		2	教授 工博 小淵 洋一	
	画像処理特論	1・2		2	講師 工博 川上 肇	
	知能情報特論	1・2		2	教授 理博 木村 昌弘	
情報通信工学	計算機システム特論	1・2		2	教授 工博 宮下 豊勝 教授 工博 中村 奉夫 教授 工博 栗井 郁雄 教授 工博 村田 正 教授 工博 小堀 聡	2010年度不開講
	パターン情報システム特論	1・2		2		
	情報通信システム特論	1・2		2		
	マイクロ波通信工学特論	1・2		2		
	情報通信工学特論	1・2		2		
	生体システム特論	1・2		2		
	電子情報学演習Ⅰ	1	4			
	電子情報学演習Ⅱ	2	4			
	電子情報学特別研究	1～2	8			
他 専 攻 科 目	物性物理学特論			} 数理情報学専攻科目		
	計算科学特論					
	数理モデル特論					
	視覚認知計算特論					
	数理科学特論					
	ソフトウェア開発法特論					
	ソフトウェア理論特論					
	自然言語処理特論					
	ロボット工学特論			} 機械システム工学専攻科目		
	知能制御特論					
	知能システム特論					
	材料物性特論					
	パターン情報特論			} 情報メディア学専攻科目		
	情報環境特論					
	知的情報処理特論					
音楽情報処理特論						
ヒューマンインタフェース特論						
情報メディア学特論						

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[機械システム工学専攻] (2010年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考	
		必修	選択			
力学系	材料強度・解析学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 辻上 哲也	2010年度不開講
	材料強度・設計特論	1・2		2	教授 工博 堀川 武	
	機械力学特論	1・2		2	教授 工博 金子康智	
	応用力学特論	1・2		2	教授 工博 大塚尚武	
	破壊力学特論	1・2		2		
エネルギー系	エネルギー工学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 塩見 洋一	2010年度不開講
	熱流体工学特論	1・2		2	准教授 博士(工学) 大津 広敬	
	流体力学特論	1・2		2		
システム系	材料物性特論	1・2		2	講師 博士(工学) 森 正和	2010年度不開講
	材料・加工特論	1・2		2		
	ロボット工学特論	1・2		2	准教授 博士(工学) 渋谷 恒司	
	知能制御特論	1・2		2	教授 工博 岩本 太郎	
	知能システム特論	1・2		2	教授 学術博 堤 一義	
	計測システム特論	1・2		2	教授 理博 西原 弘訓	
機械システム工学演習Ⅰ	1		4			
機械システム工学演習Ⅱ	2		4			
機械システム工学特別研究	1～2		8			
他 専 攻 科 目	物性物理学特論				} 数理情報学専攻科目	
	計算科学特論					
	応用数学特論				} 電子情報学専攻科目	
	電子物性特論					
	無機機能材料化学特論				} 物質化学専攻科目	随意科目
	材料物性測定学特論					
	RUBeC 演習Ⅰ					
	RUBeC 演習Ⅱ					
	パターン情報特論				} 情報メディア学専攻科目	
	音楽情報処理特論					
ヒューマンインタフェース特論						
廃棄物工学特論				} 環境ソリューション工学専攻科目		
水道工学特論						
水域水質管理学特論A						
水域水質管理学特論B						

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[機械システム工学専攻] (2009年度以前入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考	
		必修	選択			
力学系	材料強度・解析学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 辻上 哲也	2010年度不開講
	材料強度・設計特論	1・2		2	教授 工博 堀川 武	
	機械力学特論	1・2		2	教授 工博 金子康智	
	応用力学特論	1・2		2	教授 工博 大塚尚武	
	破壊力学特論	1・2		2		
エネルギー系	エネルギー工学特論	1・2		2		2010年度不開講
	熱流体工学特論	1・2		2	教授 博士(工学) 塩見 洋一	
	流体力学特論	1・2		2	准教授 博士(工学) 大津 広敬	
システム系	材料物性特論	1・2		2	講師 博士(工学) 森 正和	2010年度不開講
	材料・加工特論	1・2		2		
	ロボット工学特論	1・2		2	准教授 博士(工学) 渋谷 恒司	
	知能制御特論	1・2		2	教授 工博 岩本 太郎	
	知能システム特論	1・2		2	教授 学術博 堤 一義	
	計測システム特論	1・2		2	教授 理博 西原 弘訓	
機械システム工学演習Ⅰ	1		4			
機械システム工学演習Ⅱ	2		4			
機械システム工学特別研究	1～2		8			
他 専 攻 科 目	物性物理学特論				} 数理情報学専攻科目	
	計算科学特論					
	応用数学特論				} 電子情報学専攻科目	
	電子物性特論					
	無機機能材料化学特論				} 物質化学専攻科目	
	材料物性測定学特論					
	パターン情報特論				} 情報メディア学専攻科目	
	音楽情報処理特論					
	ヒューマンインタフェース特論					
	廃棄物工学特論				} 環境ソリューション工学専攻科目	
水道工学特論						
水域水質管理学特論A						
水域水質管理学特論B						

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[物質化学専攻] (2010年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考	
		必修	選択			
物質評価系	分析科学特論	1・2		2	教授 工博 藤原 学	2010年度不開講
	錯体解析学特論	1・2		2		
	生物化学特論	1・2		2	准教授 博士(理学) 宮武智弘	
	材料物性測定学特論	1・2		2	講師 博士(理学) 白神達也	
	環境科学特論	1・2		2		
	電気化学特論	1・2		2	講師 博士(工学) 糟野 潤	
無機材料系	無機材料資源化学特論	1・2		2	教授 工博 和田隆博	2010年度不開講
	固体電子構造化学特論	1・2		2		2010年度不開講
	固体化学特論	1・2		2		
	無機機能材料化学特論	1・2		2	准教授 博士(工学) 青井芳史	
有機・高分子材料系	有機合成化学特論	1・2		2	准教授 博士(理学) 岩澤哲郎	
	有機機能材料化学特論	1・2		2	内田欣吾ほか	
	高分子材料工学特論	1・2		2	教授 博士(理学) 中沖隆彦	
	高分子物理化学特論	1・2		2	教授 工博 林 久夫	
	生物機能化学特論	1・2		2	准教授 博士(工学) 富崎欣也	
他専攻科目	共生学特論	1・2	2	2	大柳満之ほか	2010年度不開講 2010年度不開講  随意科目
	英語プレゼンテーション特論Ⅰ	1・2		2	教授 イエニクS.C.	
	英語プレゼンテーション特論Ⅱ	1・2		2	教授 イエニクS.C.	
	物質化学特論Ⅰ (プロジェクト企画特論Ⅰ)	1・2		2	内田欣吾ほか	
	物質化学特論Ⅱ	1・2		2	兼任教員 工博 松林玄悦	
	物質化学特論Ⅲ	1・2		2		
	物質化学特論Ⅳ	1・2		2		
	高度物質化学特論・演習	1・2	2		林 久夫ほか	
	高度物質化学実験・演習	1・2	2		中沖隆彦ほか	
	RUBeC演習Ⅰ	1・2		4	大柳満之ほか	
	RUBeC演習Ⅱ	1・2		④	大柳満之ほか	
	物質化学演習Ⅰ	1		4		
	物質化学演習Ⅱ	2		4		
	物質化学特別研究	1～2		8		
他専攻科目	複雑系反応数理解析特論				数理情報学専攻科目	
	材料物性特論				} 機械システム工学専攻科目	
	計測システム特論					
	材料強度・解析学特論					
	廃棄物工学特論				} 環境ソリューション工学専攻科目	
	水道工学特論					
	下水道工学特論					
	水域水質管理学特論A					
	水域水質管理学特論B					
	環境システム解析学特論					
水処理工学特論						
環境微生物工学特論						
地域循環資源処理工学特論						
生物圏資源循環工学特論						

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[物質化学専攻] (2009年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考	
		必修	選択			
物質評価系	分析科学特論	1・2		2	教授 工博 藤原 学	2010年度不開講
	錯体解析学特論	1・2		2		
	生物化学特論	1・2		2	准教授 博士(理学) 宮武智弘	
	材料物性測定学特論	1・2		2	講師 博士(理学) 白神達也	
	環境科学特論	1・2		2		
無機材料系	無機材料資源化学特論	1・2		2	教授 工博 和田隆博	2010年度不開講
	固体電子構造化学特論	1・2		2		2010年度不開講
	固体化学特論	1・2		2		
	無機機能材料化学特論	1・2		2	准教授 博士(工学) 青井芳史	
有機・高分子材料系	有機合成化学特論	1・2		2	准教授 博士(理学) 岩澤哲郎	
	有機機能材料化学特論	1・2		2	内田欣吾ほか	
	高分子材料工学特論	1・2		2	教授 博士(理学) 中沖隆彦	
	高分子物理化学特論	1・2		2	教授 工博 林久夫	
	生物機能化学特論	1・2		2	准教授 博士(工学) 富崎欣也	
	共生学特論	1・2	2	2	大柳満之ほか	2010年度不開講 2010年度不開講          随意科目
	英語プレゼンテーション特論Ⅰ	1・2		2	教授 イエニクS.C.	
	英語プレゼンテーション特論Ⅱ	1・2		2	教授 イエニクS.C.	
	物質化学特論Ⅰ (プロジェクト企画特論Ⅰ)	1・2		2	内田欣吾ほか	
	物質化学特論Ⅱ	1・2		2	兼任教員 工博 松林玄悦	
	物質化学特論Ⅲ	1・2		2		
	物質化学特論Ⅳ	1・2		2		
	高度物質化学特論・演習	1・2	2		林久夫ほか	
	高度物質化学実験・演習	1・2	2		中沖隆彦ほか	
	RUBeC演習Ⅰ	1・2		4	大柳満之ほか	
	RUBeC演習Ⅱ	1・2		④	大柳満之ほか	
	物質化学演習Ⅰ	1		4		
	物質化学演習Ⅱ	2		4		
	物質化学特別研究	1～2		8		
他 専 攻 科 目	複雑系反応数理解析特論				数理解析学専攻科目	
	材料物性特論				} 機械システム工学専攻科目	
	計測システム特論					
	材料強度・解析学特論					
	廃棄物工学特論				} 環境ソリューション工学専攻科目	
	水道工学特論					
	下水道工学特論					
	水域水質管理学特論A					
	水域水質管理学特論B					
	環境システム解析学特論					
	水処理工学特論					
	環境微生物工学特論					
	地域循環資源処理工学特論					
	生物圏資源循環工学特論					

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[情報メディア学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	授業を 行う年次	単位数		担 当 教 員	備 考	
		必修	選択			
情報システム	情報環境特論	1・2		2	教授 工博 外村佳伸	2010年度不開講
	情報システム特論	1・2		2		
	音楽情報処理特論	1・2		2	講師 工博 三浦雅展	
メディア工学	パターン情報特論	1・2		2	教授 工博 岡田至弘	
	メディア処理特論	1・2		2	准教授 学術博 藤田和弘	
	メディア構成特論	1・2		2	講師 情報博 渡辺靖彦	
	ヒューマンインタフェース特論	1・2		2	教授 工博 片岡章俊	
ソフトウェア科学	ソフトウェア開発特論	1・2		2	教授 システム博 新川芳行	
	知的情報処理特論	1・2		2	教授 工博 三好 力	
	ソフトウェア科学特論	1・2		2	准教授 工博 野村竜也	
	言語情報処理特論	1・2		2	准教授 工博 吉見毅彦	
	情報メディア学特論	1・2		2		2010年度不開講
	情報メディア学演習Ⅰ	1	4			
	情報メディア学演習Ⅱ	2	4			
	情報メディア学特別研究	1・2	8			
他専攻科目	計算科学特論				} 数理情報学専攻科目	
	自然言語処理特論					
	ソフトウェア理論特論					
	オートマトン理論特論				} 電子情報学専攻科目	
	計算機システム特論					
情報通信システム特論						
電子ディスプレイ特論						
	知能システム特論				機械システム工学専攻科目	

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[環境ソリューション工学専攻] (2010年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称		授 業 を 行 う 年 次	単 位 数		担 当 教 員			備 考
			必 修	選 択				
エ コ ロ ジ ー 工 学	廃棄物工学特論	1・2		2	教授	工博 占部 武生		
	大気環境工学特論	1・2		2	教授	工博 市川 陽一		
	水道工学特論	1・2		2			2010年度不開講	
	下水道工学特論	1・2		2			2010年度不開講	
	水域水質管理学特論A	1・2		2			2010年度不開講	
	水域水質管理学特論B	1・2		2	教授	工博 竺 文彦		
	環境システム解析学特論	1・2		2			2010年度不開講	
	水処理工学特論	1・2		2	教授	工博 岸本直之		
	環境微生物工学特論	1・2		2	准教授	工博 越川博元		
	地域循環資源処理工学特論	1・2		2			2010年度不開講	
	生物圏資源循環工学特論	1・2		2	兼任教員	工博 石垣智基		
生 態 環 境 マ ネ ジ メ ン ト	植物生理生態学特論	1・2		2	教授	Ph. D レイトーマス		
	動物生態学特論A	1・2		2			2010年度不開講	
	動物生態学特論B	1・2		2	講師	理博 丸山 敦		
	生態系生態学特論	1・2		2			2010年度不開講	
	森林生態学特論	1・2		2	教授	農博 宮浦富保		
	流域生態学特論A	1・2		2			2010年度不開講	
	流域生態学特論B	1・2		2	教授	理博 遊磨正秀		
	保全生物学特論	1・2		2			2010年度不開講	
	多様性生物学特論	1・2		2	准教授	農博 横田岳人		
	理論生態学特論A	1・2		2			2010年度不開講	
	理論生態学特論B	1・2		2	准教授	理博 近藤倫生		
他 専 攻 科 目	環境技術英語特論	1・2		2	教授	Ph. D レイトーマス		
	環境ソリューション工学特論Ⅰ	1・2		2			2010年度不開講	
	環境ソリューション工学特論Ⅱ	1・2		2		宮浦富保ほか		
	環境ソリューション工学演習Ⅰ	1	4					
	環境ソリューション工学演習Ⅱ	2	4					
	環境ソリューション工学特別研究	1・2	8					
他 専 攻 科 目	偏微分方程式特論A				} 数理情報学専攻科目			
	偏微分方程式特論B							
	計算科学特論							
	複雑系反応数理解析特論							
	非線形動力学特論							
	数理モデル特論							
	応用数学特論							} 電子情報学専攻科目
エネルギー工学特論				} 機械システム工学専攻科目				
流体力学特論								
錯体解析学特論				} 物質化学専攻科目				
無機材料資源化学特論								
固体化学特論								
無機機能材料化学特論								
生物化学特論								
電気化学特論								

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

[環境ソリューション工学専攻] (2009年度入学生適用)

授 業 科 目 の 名 称		授 業 を 行 う 年 次		単 位 数		担 当 教 員			備 考
		必 修	選 択	必 修	選 択				
エ コ ロ ジ ー 工 学	廃棄物工学特論	1・2		2		教授	工博	占部 武生	
	大気環境工学特論	1・2		2		教授	工博	市川 陽一	
	水道工学特論	1・2		2					2010年度不開講
	下水道工学特論	1・2		2					2010年度不開講
	水域水質管理学特論A	1・2		2					2010年度不開講
	水域水質管理学特論B	1・2		2		教授	工博	竺 文彦	
	環境システム解析学特論	1・2		2					2010年度不開講
	水処理工学特論	1・2		2		教授	工博	岸本 直之	
	環境微生物工学特論	1・2		2		准教授	工博	越川 博元	
	地域循環資源処理工学特論	1・2		2					2010年度不開講
	生物圏資源循環工学特論	1・2		2		兼任教員	工博	石垣 智基	
生 態 環 境 マ ネ ジ メ ン ト	植物生理生態学特論	1・2		2		教授	Ph. D	レイ トーマス	
	動物生態学特論A	1・2		2					2010年度不開講
	動物生態学特論B	1・2		2		講師	理博	丸山 敦	
	生態系生態学特論	1・2		2					2010年度不開講
	森林生態学特論	1・2		2		教授	農博	宮浦 富保	
	流域生態学特論A	1・2		2					2010年度不開講
	流域生態学特論B	1・2		2		教授	理博	遊磨 正秀	
	保全生物学特論	1・2		2					2010年度不開講
	多様性生物学特論	1・2		2		准教授	農博	横田 岳人	
	理論生態学特論A	1・2		2					2010年度不開講
	理論生態学特論B	1・2		2		准教授	理博	近藤 倫生	
環 境 ソ リ ユ ー シ ョ ン 工 学	環境技術英語特論	1・2		2		教授	Ph. D	レイ トーマス	
	環境ソリューション工学特論Ⅰ	1・2		2					2010年度不開講
	環境ソリューション工学特論Ⅱ	1・2		2				宮浦 富保 ほか	
	環境ソリューション工学演習Ⅰ	1	4						
	環境ソリューション工学演習Ⅱ	2	4						
	環境ソリューション工学特別研究	1・2		8					
他 専 攻 科 目	偏微分方程式特論A					} 数理情報学専攻科目			
	偏微分方程式特論B								
	計算科学特論								
	複雑系反応数理解析特論								
	非線形動力学特論								
	数理モデル特論								
	応用数学特論					} 電子情報学専攻科目			
	エネルギー工学特論					} 機械システム工学専攻科目			
	流体力学特論								
	錯体解析学特論					} 物質化学専攻科目			
無機材料資源化学特論									
固体化学特論									
無機機能材料化学特論									
生物化学特論									

注意：他専攻科目の配当年次・単位数・担当教員等は当該専攻のページを参照すること。

## (2) 博士後期課程

## [数理解情報学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
数理解析特別研究	1～3	12		教授 理博 國府宏枝 教授 理博 松本和一郎 教授 理博 森田善久 教授 理博 四ツ谷晶二	2010年度不開講
数理解析特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 理博 國府宏枝 教授 理博 森田善久	
数理解析特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 理博 松本和一郎 教授 理博 四ツ谷晶二	
応用数理特別研究	1～3	12		教授 理博 飯田晋司 教授 理博 池田 勉	
応用数理特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 理博 飯田晋司 教授 理博 池田 勉	
応用数理特別講義Ⅱ	1・2		2		
情報科学特別研究	1～3	12		教授 工博 宇土顯彦 教授 工博 馬 青 准教授 理博 中野 浩 教授 工博 馬 青	
情報科学特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 工博 馬 青	
情報科学特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 工博 宇土顯彦 准教授 理博 中野 浩	
高度専門研究特別講義	1～3		2		

## [電子情報学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
電子情報基礎特別研究	1～3	12		教授 工博 木村 陸 教授 工博 齊藤光徳 教授 工博 山本伸一 准教授 理博 海川龍治	
電子情報基礎特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 工博 木村 陸 教授 工博 齊藤光徳 教授 工博 山本伸一	
電子情報基礎特別講義Ⅱ	1・2		2	准教授 理博 海川龍治	
情報処理機構特別研究	1～3	12		教授 工博 小淵洋一 教授 理博 木村昌弘 教授 工博 小堀 聡	
情報処理機構特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 工博 小淵洋一 教授 理博 木村昌弘	
情報処理機構特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 工博 小堀 聡	
情報システム特別研究	1～3	12		教授 工博 栗井郁雄 教授 工博 宮下豊勝 教授 工博 村田 正	
情報システム特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 工博 村田 正	
情報システム特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 工博 栗井郁雄 教授 工博 宮下豊勝	
高度専門研究特別講義	1～3		2		

[機械システム工学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
力学特別研究	1～3	12		教授 工博 大塚尚武 教授 工博 金子康智 教授 工博 堀川 武 教授 博士(工学) 辻上哲也	
力学特別講義Ⅰ	1・2	2		教授 工博 堀川 武 教授 博士(工学) 辻上哲也	
力学特別講義Ⅱ	1・2	2		教授 工博 大塚尚武 教授 工博 金子康智	
エネルギー特別研究	1～3	12		教授 博士(工学) 塩見洋一 准教授 博士(工学) 大津広敬	
エネルギー特別講義Ⅰ	1・2	2		教授 博士(工学) 塩見洋一	
エネルギー特別講義Ⅱ	1・2	2		准教授 博士(工学) 大津広敬	
システム特別研究	1～3	12		教授 工博 岩本太郎 教授 工博 河嶋壽一 教授 理博 西原弘訓 教授 学術博 堤 一義 准教授 博士(工学) 洪谷恒司	
システム特別講義Ⅰ	1・2	2		教授 工博 岩本太郎 教授 学術博 堤 一義 准教授 博士(工学) 洪谷恒司	
システム特別講義Ⅱ	1・2	2		教授 工博 河嶋壽一 教授 工博 西原弘訓	
高度専門研究特別講義	1～3	2			

[物質化学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
物質評価法特別研究	1～3	12		教授 工博 藤原 学 准教授 博士(工学) 宮武智弘	
物質評価法特別講義Ⅰ	1・2	2		准教授 博士(工学) 宮武智弘	
物質評価法特別講義Ⅱ	1・2	2		教授 工博 藤原 学	
無機材料特別研究	1～3	12		教授 工博 大柳満之 教授 工博 和田隆博 准教授 博士(工学) 青井芳史	
無機材料特別講義Ⅰ	1・2	2		教授 工博 和田隆博	
無機材料特別講義Ⅱ	1・2	2		教授 工博 大柳満之 准教授 博士(工学) 青井芳史	
有機・高分子材料特別研究	1～3	12		教授 工博 内田欣吾 教授 博士(理学) 中沖隆彦 教授 工博 林 久夫 准教授 博士(理学) 岩澤哲郎 准教授 博士(工学) 富崎欣也	
有機・高分子材料特別講義Ⅰ	1・2	2		教授 工博 内田欣吾 准教授 博士(理学) 岩澤哲郎	
有機・高分子材料特別講義Ⅱ	1・2	2		教授 博士(理学) 中沖隆彦 教授 工博 林 久夫 准教授 博士(工学) 富崎欣也	
高度専門研究特別講義	1～3	2			
RUBeC 高度特別講義・演習Ⅰ	1～3	4		大柳満之ほか	
RUBeC 高度特別講義・演習Ⅱ	1～3	4		大柳満之ほか	随意科目

[情報メディア学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
ソフトウェア科学特別研究	1～3	12		教授 システム博 新川 芳行	2010年度不開講
ソフトウェア科学特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 システム博 新川 芳行	
ソフトウェア科学特別講義Ⅱ	1・2		2	准教授 工博 吉見 毅彦 准教授 工博 野村 竜也	
情報システム特別研究	1～3	12		教授 工博 片岡 章俊	
情報システム特別講義Ⅰ	1・2		2		
情報システム特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 工博 片岡 章俊	
メディア工学特別研究	1～3	12		教授 工博 岡田 至弘	
メディア工学特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 工博 岡田 至弘	
メディア工学特別講義Ⅱ	1・2		2	准教授 学術博 藤田 和弘	
高度専門研究特別講義	1～3		2		

[環境ソリューション工学専攻]

授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数		担 当 教 員	備 考
		必修	選択		
エコロジー工学特別研究	1～3	12		教授 工博 占部 武生 教授 工博 岸本 直之 教授 工博 竺 文彦	
エコロジー工学特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 工博 岸本 直之 准教授 工博 越川 博之	
エコロジー工学特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 工博 占部 武生 教授 工博 竺 文彦	
生態学特別研究	1～3	12		教授 農博 宮浦 富保 教授 理博 遊磨 正秀 教授 Ph. D レイトーマス	
生態学特別講義Ⅰ	1・2		2	教授 Ph. D レイトーマス 准教授 理博 近藤 倫生 准教授 農博 横田 岳人	
生態学特別講義Ⅱ	1・2		2	教授 農博 宮浦 富保 教授 理博 遊磨 正秀	
高度専門研究特別講義	1～3		2	教授 工博 占部 武生	

## Ⅱ 学位の取得

### 1. 学位の取得

それぞれの課程における専攻で取得できる学位は、次のとおりである。

#### 修士課程

数理情報学専攻	修士（理学）
電子情報学専攻	修士（工学）
機械システム工学専攻	修士（工学）
物質化学専攻	修士（工学）
情報メディア学専攻	修士（工学）
環境ソリューション工学専攻	修士（工学）

#### 博士後期課程

数理情報学専攻	博士（理学）
電子情報学専攻	博士（工学）
機械システム工学専攻	博士（工学）
物質化学専攻	博士（工学）
情報メディア学専攻	博士（工学）
環境ソリューション工学専攻	博士（工学）

### 2. 課程修了の認定

#### 修士課程

修士の学位を得ようとする者は、その修士課程に2年以上在学し、その正規の授業を受け、所定の科目について32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格しなければならない。なお、課程修了の認定には、その研究に必要な1ヶ国以上の外国語に通ずることを条件とする。

#### 博士後期課程

博士の学位を得ようとする者は、博士課程に5年以上（修士課程を修了した者にあつては当該課程における2年の在学期間を含む。）在学し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。なお、課程修了の認定には、その研究に必要な1ヶ国以上の外国語に通ずることを条件とする。

### 3. 1年修了制について

「Ⅲ. 龍谷大学大学院理工学研究科修士課程・博士後期課程1年修了制」に述べるとおりである。

### 4. 研究指導について

「Ⅳ. 龍谷大学大学院理工学研究科研究指導要項」に述べるとおりである。

### 5. 学位論文について

「Ⅴ. 龍谷大学大学院理工学研究科学位論文審査等規程」に述べるとおりである。

### 6. 最終試験

論文を中心とし、これに関連する内容について行われる。

## Ⅲ 龍谷大学大学院理工学研究科修士課程・博士後期課程1年修了制

龍谷大学大学院理工学研究科では、2005年度より成績優秀な学生に対し在学期間を短縮できる制度を設けている。

### 1. 修士課程1年修了制

本学理工学部での成績が優秀な学生に対しては推薦入試制度があり、その推薦される学生の中からさらに優秀な学生に対しては、修士を最短1年で修了する制度が適用される。

学内推薦入学試験を受験し、理工学研究科に合格した学生は、学部4年のときに大学院の科目を最大10単位まで受講することが可能で、大学院に入学後単位認定がなされる。この10単位をすべて合格し、修士1年のときに科目6単位と演習Ⅰ・Ⅱ、特別研究および修士論文の審査に合格すれば、最短1年で修士を修了することができる。ただし、最終結果で判定されるので、成果が不十分であれば、1.5年ないしは2年になることもあり得る。

この制度は成績優秀な学生に対して、大学院への進学を促し、さらなる向学心の向上を期待して設けられたものである。修士課程の期間が半分になるというよりは、学部4年から修士の研究活動が始まり、学部と修士課程をあわせ6年間かかるところを5年間に短縮する制度である。

### 2. 博士後期課程1年修了制

博士前期課程あるいは修士課程を修了し、その後社会人として研究業績を積み、博士の学位取得を希望するものを主な対象として、博士号の取得を短期でできるように支援するものである。

希望者は入学後、「高度専門研究特別講義（2単位）」の科目登録をし、それに合格することが条件である。その後、学位論文を完成して審査を受けることになる。審査に合格すれば、最短1年で課程を修了し、学位を取得することができる。ただし、入学時に1年修了を約束するものではない。結果が不十分であれば1.5年や2年、あるいはそれ以上になる場合もある。

博士前期課程あるいは修士課程を修了していないものは、事前の審査を受けて、修士相当であることを認定する制度がある。認定者は前記に従って博士後期課程1年修了制の適用を受けることができる。

なお、特例で博士前期課程あるいは修士課程を2年未満で修了したものは、最短でも2年の在学期間が必要になる。

## Ⅳ 龍谷大学大学院理工学研究科研究指導要項

龍谷大学大学院理工学研究科の教育は、授業および学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という）によって行うものであるが、本要項は、研究指導の大綱を規定するものである。授業科目については、龍谷大学大学院学則の規定するところによる。

### 1. 修士課程における研究指導

#### (1) 研究題目・指導教員の選定

ア. 各専攻学生は、入学後すみやかに、研究題目を決め、その題目に応じて、指導教員1名（以下、「指導教員（主）」という）を選ばねばならない。

なお、必要に応じて指導教員（副）を選ぶことができる。

イ. 指導教員（主）は、原則として、当該専攻の理工学研究科修士課程特別研究担当の専任教員でなければならない。

指導教員（副）は、原則として、理工学研究科修士課程の講義担当の専任教員のうちから指導教員（主）の同意を得て、選ばねばならない。

ウ. 指導教員（主）が、特に必要と認め、かつ研究科委員会が承認した場合、他研究科の専任教員を指導教員（副）として選ぶことができる。

#### (2) 研究題目届・指導教員選定届

ア. 研究題目届・指導教員選定届については、所定の用紙に指導教員（主）の認印を得て、入学年次の所定の期日まで（学年暦参照）にその届出を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

イ. やむを得ず研究題目等の変更の必要がある場合には、指導教員（主）の同意を得た上、所定の用紙に必要事項を記入し、研究科委員会の承認を得なければならない。

#### (3) 修士論文

ア. 指導教員（主）の指導を受けて、修士論文審査願を、所定の期日まで（学年暦参照）に提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

イ. 論文作成の指導ないし助言は、指導教員から受けるものとする。

### 2. 博士後期課程における研究指導

#### (1) 研究題目・指導教員の選定

ア. 各専攻学生は、研究題目に応じて、指導教員1名（以下、「指導教員（主）」という）を選ばねばならない。

なお、必要に応じて指導教員（副）を選ぶことができる。

イ. 指導教員（主）は、原則として、当該専攻の理工学研究科博士後期課程特別研究担当の専任教員でなければならない。

指導教員（副）は、原則として、理工学研究科博士後期課程の講義担当の専任教員のうちから指導教員（主）の同意を得て、選ばねばならない。

ウ. 指導教員（主）が、特に必要と認め、かつ研究科委員会が承認した場合、他研究科の専任教員を指導教員（副）として選ぶことができる。

(2) 研究題目届・指導教員選定届

ア. 研究題目届・指導教員選定届については、所定の用紙に指導教員（主）の認印を得て、所定の期日まで（学年暦参照）にその届出を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

イ. やむを得ず研究題目等の変更の必要がある場合には、指導教員（主）の同意を得た上、所定の用紙に必要事項を記入し、研究科委員会の承認を得なければならない。

(3) 博士論文

ア. 指導教員（主）の指導を受けて、研究の内容、方法などの大綱を記述した博士論文概要および博士論文審査願を、所定の期日まで（学年暦参照）に提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

イ. 博士論文は、指導教員（主）の指導とその同意のもとに作成するものとする。

# **V** 龍谷大学大学院理工学研究科学位論文審査等規程

## 第1章 修士論文の審査等

(論文の提出資格)

第1条 龍谷大学大学院理工学研究科の修士課程学生で、その所属する専攻所定の修士課程授業科目を所定の履修方法によって履修し、課程修了に必要な32単位以上をその学年度までに取得した者、または取得見込みの者は、所定の手続により所定の期日までに修士論文の審査願を提出の上、修士論文を提出できる。

(論文の受理)

第2条 前条の規程を満たし提出される修士論文は、別に定める修士論文の様式を具備するものでなければならない。

2. 提出される修士論文は、所定の日時までに提出されねばならない。
3. 前2項の要件を満たして提出された修士論文は、本研究科委員会の議を経て、学長が受理する。

(論文の審査)

第3条 修士論文の審査は、修士論文提出者の所属する各専攻ごとに、修士課程の特別研究担当の研究科専任教員を含む2名以上の審査員によって行われる。

2. 修士論文の審査には、口述試験を課する。

(論文の合否)

第4条 修士論文は、2年間広い視野に立って専攻分野の研究をした成果に相当するものでなければならない。

2. 修士論文は、社会の要請する学術的あるいは科学技術的課題に対し、当該分野の高度な専門知識および関連分野の幅広い基礎知識を駆使し、与えられた条件の下で、その課題を分析し、解決に至る手順を示し、それを実行し、その結果を明瞭に表現したものであること。
3. 修士論文の合否は、論文の内容ならびに口述試験の結果によって判定する。

## 第2章 博士論文の審査等

(規程の対象)

第5条 龍谷大学大学院理工学研究科の行う博士論文の審査は、龍谷大学大学院学則の定める博士課程修了の要件の一つとして行われるものと、龍谷大学学位規程第3条第4項によって提出された博士の学位請求論文について行われるものの2種類あるが、本規程は、前者にかかわる審査等の大綱を規定するものである。後者にかかわる審査等については、本学学位規程によるものとする。

(論文の提出資格)

第6条 龍谷大学大学院理工学研究科の博士後期課程学生で、その所属する専攻所定の博士後期課程授業科目を所定の履修方法によって履修し、課程修了に必要な12単位以上をその学年度までに取得した者、または取得見込みの者は、所定の手続により所定の期日までに博士論文の審査願を提出の上、博士論文を提出できる。

2. 本研究科の博士後期課程に所定の修業年限以上在学し所定の単位を修得して退学した者が、博士の学位の授与を申請するときは、退学後3年以内に限り、龍谷大学学位規程第3条第3項による学位としてあつかうものとする。

(論文の受理)

第7条 前条により博士論文を提出する者は、論文、論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文、本学学位規程付載の別表第6の様式による履歴書、各3通を提出するとともに、所定の審査手数料を納付するものとする。

2. 提出された博士論文については、本研究科委員会の議を経て、学長が受理する。

(論文の審査)

第8条 本研究科委員会は、博士論文の審査に当たり、必要があるときは、論文の提出者に対して、当該論文の関係論文、訳本その他の提出を求めることができる。

第9条 本研究科委員会は、論文提出者の所属する専攻の博士後期課程授業科目の担当教授および関連のある研究科授業科目担当教授のうちから3名以上の審査員を選び、その審査に当たらせる。

2. 本研究科委員会が必要と認めるときは、前項の規程にかかわらず、本研究科の授業担当の准教授、講師を審査員に入れることができる。

3. 本研究科委員会が必要と認めるときは、本条第1項の規程にかかわらず、龍谷大学大学院他研究科および他大学の大学院等の教員等を審査員に入れることができる。

第10条 博士論文の審査には、口述試験を課する。

2. 前項の口述試験は、当該論文の審査員および本研究科委員会で承認された他の委員を含む5名が担当し、本研究科の授業担当の教員は、その試験に陪席することができる。

(論文の合否)

第11条 博士論文は、その専攻分野について、研究者・技術者として自立して研究・開発活動を行うに必要な高度の研究・開発能力およびその基礎となる豊かな学識を有することを立証するに足りるものでなければならない。

第12条 本研究科委員会は、審査員より当該論文の審査報告を受け、論文の合否を決定する。

付 則

第1条 この規程は、龍谷大学大学院理工学研究科内規として、平成5年4月1日から施行する。

付 則 (平成7年3月8日第1章改正第2章新設)

第1条 この規程は、龍谷大学大学院理工学研究科内規として、平成7年4月1日から施行する。

付 則 (平成9年3月17日第2章第6条第2項一部改正)

第1条 この規程は、龍谷大学大学院理工学研究科内規として、平成9年4月1日から施行し、平成9年度博士後期課程入学者から適用する。ただし、平成8年度以前博士後期課程入学者については、なお従前の規程を適用する。

## Ⅵ 教職課程

### 1. 教育職員免許状の種類

各専攻において修得できる教育職員免許状の種類は次のとおりである。

専攻	免許教科	中学校教諭	高等学校教諭
数理情報学専攻	数 学	専修免許状	専修免許状
電子情報学専攻	工 業	-	専修免許状
機械システム工学専攻	工 業	-	専修免許状
物質化学専攻	理 科	専修免許状	専修免許状
情報メディア学専攻	情 報	-	専修免許状
環境ソリューション工学専攻	理 科	専修免許状	専修免許状

※中学校教諭の普通免許取得には、「介護等体験」が必要となる。

(1998年4月1日以降入学生(学部・大学院・科目等履修生)に適用)

### 2. 免許状取得のための履修方法

- ア. 資 格 修士の学位を有すること。(もしくは、大学院に1年以上在学し、30単位以上を修得した者)
- イ. 必要単位数 学部において取得しなければならない「教科に関する科目」および「教職に関する科目」の単位数に、さらに大学院において、32単位以上(内、自専攻24単位以上)取得のこと。大学院修士課程の科目は、教科に関する科目として認定される。ただし、他専攻科目は教育職員免許状取得のための単位数とは認められない。
- ウ. 学部科目履修 未修得の学部開講科目については、大学院に在学中に学部科目履修により修得することができる。(Ⅶ. 龍谷大学大学院理工学研究科学生の学部科目履修に関する内規を参照のこと)
- エ. 留 意 事 項 大学院在学中に学部科目履修によって教職科目を履修しようとする者は、原則として新免許法、新基準に適した科目、単位数を取得しなければならない。また、中学校の普通免許状の授与を初めて受けようとする者は、「小学校および中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育免許法の特例等に関する法律」に定める「介護等体験」が必要となる。本学の「教育実践研究Ⅰ(2000年度以降入学生)」2単位がこれにあたるので、履修方法等に注意すること。

### 3. 年間スケジュール

教育実習に関する説明等年間スケジュールは『教職課程ガイドブック』を確認すること。また、「教育実践研究Ⅰ」(介護等体験)または「教育実践研究Ⅲ」(教育実習)に関するスケジュールについても『教職課程ガイドブック』を確認すること。

### 4. 教育職員免許状の出願

修了年次生で、修了に際して教育職員免許状授与の一括申請(個人が申請する代わりに大学が一括で申請する)を希望するものは、出願についての説明会、書類の受付を行うので、これに従うこと。

日時については事前に教職課程専用掲示板で連絡する。

この説明会は学位記授与式の当日に免許状が授与されるように行なうもので、書類提出等を怠ると、修了の日に免許状の発行が出来ないので充分注意すること。

なお、免許状は個人で各都道府県教育委員会に申請して受けることもできるが、その場合の申請は修了日以降となる。

### 5. その他

ア. 教員免許状取得のための単位取得の方法や、教育実習に関する諸手続きは、相当複雑であり厳密なものであるから絶えず教職課程に関する掲示に注意すること。

イ. 教職課程に関する質問や進路の相談等は、教職課程教室(又は瀬田教学部)に申し出て、指導を受けること。

## Ⅳ 龍谷大学大学院理工学研究科学生の学部科目履修に関する内規

(資格)

第1条 龍谷大学大学院理工学研究科に在籍し、理工学部開講授業科目の履修を志願する者の取扱いはこの規程による。

(出願手順)

第2条 学部科目の履修を志願する者は、所定の願書に受講希望科目を記入し、理工学部教務課を経て理工学研究科長に提出する。

(対象外科目)

第3条 理工学部では、「セミナー」、「英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、および英語以外の外国語は履修できない。

2. 前項以外の科目でも実験・実習、演習あるいは講義の性格上履修を認められない場合もある。

(許可)

第4条 理工学研究科長は前条の願書を受付けたときは、理工学研究科委員会の議にもとづき、理工学部教授会の承認を経て、これを科目等履修生として許可する。

(学費等)

第5条 履修料等学費は1単位につき7,500円とし、単位の計算方法は学則に準ずる。(受講料は龍谷大学科目等履修生要項に準ずる)

なお、無料とする科目は別表1のとおりとし、他は全て有料とする。

(教育実習)

第6条 教職専門科目「教育実践研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修は龍谷大学科目等履修生要項に準ずる。

(教育実習費については別途納入するものとする。)

(単位認定・証明書発行)

第7条 履修科目の試験に合格した者には、その所定の単位を与え、願い出により証明書を発行する。

(諸課程)

第8条 本願寺派教師資格等の課程については、それぞれの必修科目のみ無料とする。

別表1)

1. 修了の条件として在学中に単位取得するよう指定した科目。
2. 教員免許状取得に係る科目の内、教職に関する科目。
3. 教員免許状取得に係る科目の内、専修免許状取得に必要な教科に関する科目。

なお、専攻ごとに取得できる専修免許状は次のとおりである。

数理情報学専攻(数学)、電子情報学専攻(工業)、機械システム工学専攻(工業)、物質化学専攻(理科)、情報メディア学専攻(情報)、環境ソリューション工学専攻(理科)

付 則

第1条 この規程は、平成5年4月1日から施行する。

付 則(平成6年1月31日改正)

第1条 この規程は、平成6年4月1日から施行する。

付 則(平成10年3月16日第3条・第6条一部改正)

第1条 この規程は、平成10年4月1日から施行する。

## Ⅷ 研究生要項

研究生の取り扱いは、下記の大学院学則第9章の2研究生の項による。

### 第9章の2 研究生及び特別専攻生

第36条の2 本学大学院博士後期課程に3年以上在学して退学した者で、さらに、大学院において博士論文作成のための研究継続を希望する者は、研究生として研究を継続することができる。

第36条の3 研究生となることを希望する者は、所定の願書に研究計画その他必要事項を記載し、当該研究科長に願出しなければならない。

2. 研究生は、当該研究科委員会の選考により、学長が決定する。

第36条の4 研究生の期間は、1学年間又は1学期間とする。

2. 研究の継続を希望する者は、期間の更新を願出することができる。ただし、通算して3年を超えることはできない。

第36条の5 研究生は、研修費として年額2万円を大学に納入しなければならない。ただし、理工学研究科については、年額3万円とする。

2. 1学期間在籍の場合、研修費については、前項に定める年額の2分の1の金額を納入する。

第36条の6 研究生は、当該研究科委員会の定めるところにより、次の待遇を受けることができる。

- (1) 教授の指導を受けること。
- (2) 大学院学生の研究を妨げない範囲で、研究施設を利用すること。
- (3) 大学院学生の研究を妨げない範囲で、特定の科目を聴講すること。

第36条の7 研究生には、身分証明書を交付する。

第36条の8 研究生については、別に定めるところによるほか、本学則を準用する。ただし、第17条はこれを除く。

※出願方法等については、大学院理工学研究科掲示板に掲示する。(2月および9月上旬頃掲示)

## ☒ 龍谷大学大学院理工学研究科特別専攻生規程

第1条 龍谷大学大学院学則第36条の9の規定により、理工学研究科に特別専攻生の制度をおく。

第2条 本学理工学研究科修士課程を修了した者及び博士後期課程を修了した者で、さらに研究継続を希望する者は、特別専攻生として研究を継続することができる。

第2条の2 他大学の大学院生で、本学理工学研究科における研究指導を希望する者がいるときは、本学理工学研究科と当該大学院との協議に基づき、特別専攻生として研究指導を受けることができる。

第3条 特別専攻生になることを希望する者は、所定の願書に研究計画書を添えて、理工学研究科長に願出なければならない。

2 前項の願出により、理工学研究科委員会の選考をへて、入学を許可することがある。

第4条 特別専攻生の期間は、1学年間又は1学期間とする。

2 前項にかかわらず、さらに研究の継続を希望する者は、期間の更新を願出することができる。ただし、通算して3年を超えることはできない。

3 前項にかかわらず、第2条の2に定める者に関しては、本学理工学研究科と当該大学院との協議に基づき別に定める。

第5条 特別専攻生は、研修費として1学年間在籍するものは3万円、1学期間在籍するものは1万5千円を大学に納入しなければならない。

2 前項にかかわらず、第2条の2に定める者に関しては、本学理工学研究科と当該大学院との協議に基づき別に定める。

第6条 特別専攻生は、理工学研究科委員会の定めるところにより、次の待遇を受けることができる。

- (1) 大学院担当教員の指導を受けること。
- (2) 大学院学生の研究を妨げない範囲で、研究施設を利用すること。

第7条 特別専攻生には、身分証明書を交付する。

第8条 特別専攻生については、理工学研究科委員会において別に定めるところによるほか、龍谷大学大学院学則を準用する。

付 則

この規程は、平成10年3月20日から施行する。

付 則 (平成12年9月28日第4条、第5条改正)

この規程は、平成12年9月28日から施行する。

付 則 (平成21年2月20日第4条、第5条改正、第2条の2、第8条新設)

この規程は、平成21年2月20日から施行する。

※出願方法等については、大学院理工学研究科掲示板に掲示する。(2月及び9月上旬頃掲示)

## X 本願寺派教師資格課程

本願寺派教師資格は、下記の理工学部開講の関連科目を履修することによって取得できます。

本山教師科目	理工学部開講の関連科目	単位	配当年次	備考
真宗教義	真宗学概論	4	2	
仏教教義	仏教学概論	4	2	
真宗史	真宗史	4	1	通年
仏教史	日本仏教史	4	1	通年
宗教概説	宗教学概論	4	2	
勤式作法	勤式	4	1	*
宗門法規	宗門法規	2	1	◎前期集中
布教法	教化法	4	1	*

隔年開講の科目がありますので、計画的に履修してください。

\* ……2006、2008、2010年度開講

◎ ……2007、2009、2011年度開講

## Ⅹ 特別研修講座

課程	目的・内容	担当課
開教使課程	将来、海外開教使（外国における真宗伝道）を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座	文学部教務課窓口
職業会計士課程	簿記の初歩から指導をおこない、商業簿記・工業簿記の基礎力・応用力を養成する講座 日本商工会議所簿記検定試験3級・2級の合格をめざします。	経営学部教務課窓口
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員、犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人々を養成することを目的としています。	法学部教務課窓口
法職課程	司法書士試験をはじめ、各種公務員試験(裁判所事務官試験、家庭裁判所調査官補試験など)の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、体系的かつ効率的な学習カリキュラムを編成し、良質な講座及び最新の試験情報などを提供し、合格者を輩出することを目的としています。	
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座	教職センター窓口
模擬試験 資格試験	<模擬試験> TOEIC®IP / TOEFL®-ITP	生協窓口
	<資格試験> 簿記検定試験	経営学部教務課窓口
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※名称は変更することがあります。	就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座 <就職対策系> マスコミ就職対策講座/就職活動まるごと集中講座/エントリーシートの書き方講座/R-CAP/E-Testing (Web就職筆記試験対策)/就職筆記試験対策講座/福祉・保育施設就職模擬試験 <資格系> 公務員講座/ TOEIC®500点対策講座/秘書検定講座<準1・2級>/旅行業務取扱管理者講座/宅地建物取引主任者講座/2級FP技能士・AFP講座/Microsoft Certified Application Specialist講座 (Word・Excel) / ITパスポート講座/ホームヘルパー2級講座	キャリア開発部 (深草・大宮) 窓口
	<就職対策系> マスコミ就職対策講座/就職活動まるごと集中講座/エントリーシートの書き方講座/R-CAP/E-Testing (Web就職筆記試験対策)/就職筆記試験対策講座 <資格系> 公務員講座/ TOEIC®500点対策講座/秘書検定講座<準1・2級>/色彩検定講座<2・3級>/旅行業務取扱管理者講座/貿易実務検定講座<C級>/通関士講座/Microsoft Certified Application Specialist講座 (Word・Excel・Power Point) / ITパスポート講座/基本情報技術者講座/CAD利用技術者講座/危険物取扱者講座/社会福祉士国家試験対策講座/ホームヘルパー2級講座	キャリア開発部 (瀬田) 窓口

※ 上記の講座以外にも、「RECコミュニティカレッジ」(生涯学習講座)を多数開講しています。

本学学生は会員価格で受講できます。詳しくはパンフレットをご覧ください。

※ TOEIC®はエデュケーショナル・テスト・サービス (ETS) の登録商標です。この(印刷物/製品/ウェブサイト)はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

TOEFL®はエデュケーショナル・テスト・サービス (ETS) の登録商標です。この印刷物(あるいは製品)はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

# 学 修 生 活



# I 履修登録

## 1. 授業時間

本学における1回の授業時間は、90分です。なお、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通じて各講時の開始、終了の時刻は次のとおりです。

	1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
開始時刻	9 : 20	11 : 00	13 : 30	15 : 10	16 : 50
終了時刻	10 : 50	12 : 30	15 : 00	16 : 40	18 : 20

## 2. 履修登録制度

**履修登録**とは、その学期に履修しようとする科目の授業を受けるための手続きです。この登録をしていなければ、その科目を履修することはできません。仮にその授業に出席したとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は、まさに皆さんの学修計画の基礎となるわけであり、登録が有効に行われるようすべて自己の責任において取り組まなければなりません。

## 3. 履修登録の注意事項

- ① 履修登録した授業科目でなければ、受講・受験・単位の修得はできません。
- ② 重複登録（同一時間帯に2科目以上登録すること）はできません。
- ③ 既に単位を取得した科目を再び履修することはできません。
- ④ 指定された履修登録日以後の変更・追加・取消は認めません。ただし、登録エラーがあった場合はこの限りではありません。
- ⑤ 時間割、教室、担当者等について変更が生じる場合があるので、随時理工学研究科掲示板で確認すること。

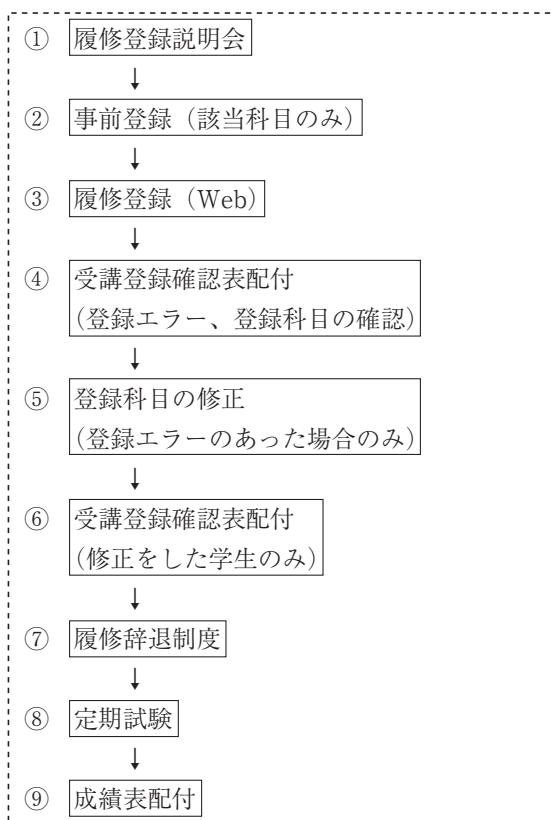
## 4. 履修登録手続のスケジュール

修士課程の学生は、前期に1年分の履修登録を行います。博士後期課程の学生は別途指示します。

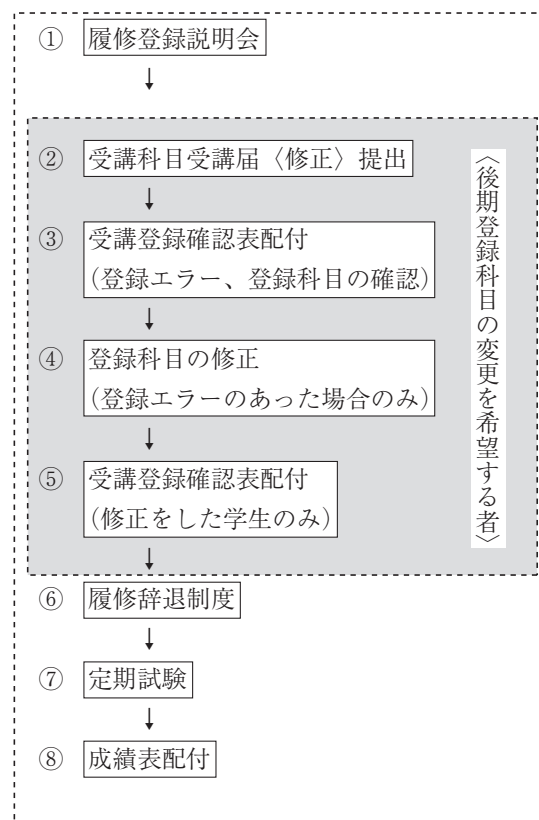
年1回登録	★前期：通年・前期・後期科目登録
	後期：後期科目の変更のみ受付

履修登録に関する手続きのスケジュールは以下のとおりです。

## 前期



## 後期



### ⚠ 注意事項

- 前期登録時は、その年度に履修しようとする全科目を登録してください。
- 後期登録時は、後期科目について変更・追加・取消を希望する場合のみ受講科目受講届（OCR用紙）を提出してください。
- 一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

## 5. 履修登録の確認

授業科目が正確に登録されているかは、自己の責任において、**配付する受講登録確認表で必ず確認すること**（配付日時は理工学研究科掲示板にて指示）。

もし、確認せずに間違ったまま登録（登録コードの入力間違い、OCRの読み取りエラー等）を放置しておくと、受講している科目が無効となるので注意すること。

万一、登録に疑問または誤りがあれば、登録修正期間に理工学部教務課まで申し出ること（日時は理工学研究科掲示板にて指示）。

## 6. 単位の認定

一つの授業科目に定められた所定の単位を取得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- ① 単位の認定を受けようとする科目について、**履修登録**をすること。
- ② その科目について、教育課程の定めどおりの**学修**をすること。
- ③ その科目の**試験**を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限らない）、その試験に合格（60点以上）すること。

## 7. 学部科目履修について

「龍谷大学大学院理工学研究科学生の学部科目履修に関する内規」に従い、履修することができます。  
なお、この場合も授業科目受講届に記入するのは当然ですが、履修登録日までに履修登録票（用紙は理工学部教務課）を提出し、許可を得なければなりません。

## 8. 履修辞退制度

※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので、注意してください。

### (1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、『授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合』や『受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合』など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録確認表配付後の、登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履修は一切記録で残らない仕組みですが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修が記録として残る仕組みです。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、「履修要項」および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

### (2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申し出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行ないません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には、履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

### (3) 履修辞退できない科目

- ① 必修科目（演習Ⅰ・Ⅱ、特別研究、物質化学専攻のみ：「共生学特論」、「高度物質化学特論・演習」、「高度物質化学実験・演習」）
- ② 事前登録が必要となる科目（RuBeC演習Ⅰ・Ⅱ）
- ③ 集中講義期間に実施される科目
- ④ 単位互換科目
- ⑤ 教育実習科目
- ⑥ その他、上記以外に研究科が設定する科目（別途指示）

### (4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は下記の日程です。なお、下記の申出期間以外の履修辞退の申し出は受付しません。

学 期	履修辞退受付期間
第1学期（前期）	6月14日（月）～ 18日（金）
第2学期（後期）	11月29日（月）～ 12月3日（金）

※上記期間中でも、平日においては窓口取扱時間外での受付は行いません。また、土・日の受付は行いません。

※上記期間中、教育実習（介護等体験）・インターンシップ等参加により、やむを得ず申し出ができない学生のために、次のとおり随時受付を行います。

学 期	受付期間
第1学期（前期）	6月1日（火）～ 11日（金）
第2学期（後期）	11月15日（月）～ 26日（金）

※上記期間中においても申し出ができない理由を有する学生については、理工学部教務課に相談してください。

(5) 履修辞退の申出方法

上記、履修辞退の申出期間に「履修辞退届」（本学所定の用紙）を、理工学部教務課に提出してください。いったん申請された履修辞退は取り下げることはできません。ただし、履修辞退した科目を次の学期以降に履修登録することはできます。

(6) 留意事項

通年科目を前期期間中に履修辞退の申し出をした場合は、後期の当該科目分にかかる登録単位数は登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に半期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申し出時期	科目区分	単位数の計算
前 期	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）はカウントしますが、第2学期（後期）はカウントしません
後 期	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

## Ⅱ 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

### 1. 成績評価の方法

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちの1または2以上を合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

### 2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（＝既得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

適用入学年度	段階評価と評点
2004年度以前入学生	A (80～100点) B (70～79点) C (60～69点)
2005年度以降入学生	S (90～100点) A (80～89点) B (70～79点) C (60～69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

※2004年度まで使用していた試験欠席を示す「K」表記は、2005年度より廃止しました（全学生に適用）。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月下旬、第2学期（後期）分を3月下旬に配付します。指定された期日に学生証を提示の上、理工学部教務課窓口で受け取ってください。

### 3. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、理工学部教務課窓口に提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間については、別途掲示します。

## 4. 筆答試験

### (1) 筆答試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の2種類になります。

#### ア 定期試験（学期末・学年末試験）

個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験をいう。

#### イ 追試験

定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験をいう（追試験の項を参照のこと）。

### (2) 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

ア その科目について、有効な履修登録がなされていること。

イ 定められた学費を納入していること。

ウ 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。

エ 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

### (3) 筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

ア 指定された試験場で受験すること。

イ 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。

ウ 学生証を携帯すること。

エ 学生証を必ず机の上に提示し、写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。

万一学生証を忘れた場合には、理工学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。

オ 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。

カ 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。

キ 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、鞆の中に入れること。

ク 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

### (4) 次の場合は、その答案は無効となります。

ア 無記名の場合。

イ 指定された場所に提出しない場合。

ウ 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合。

エ 受験態度の不良な場合。

### (5) 筆記試験における不正行為

ア 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。

イ 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。

① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合。

② 監督者の指示に従わない場合。

③ 身代わり受験を行ったとき、または行わせた場合。

④ カンニングペーパー等を所持していた場合。

⑤ 許可された以外のものを参照した場合。

⑥ 机上等への書き込みをしていた場合。

⑦ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合。

- ⑧ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合。
- ⑨ その他、①～⑧に準じる行為を行った場合。

(6) レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定をおこなわない場合があります。

(7) 追試験

ア 追試験の受験資格

- ① 病気や怪我、試験時における体調不良等による受験ができなかった者。
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀により受験ができなかった者。
- ③ 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者。
- ④ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）や就職活動（説明会、筆記試験、面接等）により受験ができなかった者。
- ⑤ 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目、環びわ湖大学コンソーシアム科目）の試験により受験ができなかった者。
- ⑥ インターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）により受験ができなかった者。
- ⑦ 交通機関の遅延等により受験ができなかった者。
- ⑧ 交通事故や災害等により受験ができなかった者。
- ⑨ 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたことにより受験できなかった者。
- ⑩ その他、学部教授会が特に必要と認めた者。

ただし、その際、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に理工学部教務課窓口に提出しなければなりません。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に理工学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

イ 追試験の受験料は、1科目1,000円です。

ウ 実技・実習科目、レポート試験による科目、定期試験期間外に実施された科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

エ 追試験での評点は、最高100点です。

(8) 試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルにより発表します。

試験時間は、次のとおりです。

	1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
開始時刻	9 : 20	11 : 10	13 : 30	15 : 20	17 : 10
終了時刻	10 : 50	12 : 40	15 : 00	16 : 50	18 : 40

※ 2、4、5講時は通常の講義開始時間と異なるので注意すること。

## Ⅲ 学籍の取り扱い

### 1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は、入学によって発生し、入学は、大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は、課程修了により消滅します。

### 2. 学籍簿

#### (1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の**学籍番号**が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は修了後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明書（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号は、理工を表す「T」と入学年度（西暦）の下2桁の数字、課程を表す「M（修士課程）」または「D（博士後期課程）」と個別の番号で構成されています。

#### (2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にする書類として、**学籍簿**（入学手続き時に各自が提出した書類）が編成されます。学籍簿に記載される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに理工学部教務課に届け出てください。

### 3. 学生証

**学生証**は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

#### (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。

- ア 学業成績表を受領するとき。
- イ 試験を受けるとき。
- ウ 各種証明書の交付を受けるとき。
- エ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
- オ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
- カ 図書館を利用するとき。
- キ その他、本人であることを確認することが必要なとき。

#### (2) 入学時に交付した学生証は、修了するまで使用するので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する**在籍確認シール**は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。（新生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定箇所に各自貼ってください。）

シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールをはがしたうえで、新たなシールを貼ってください。

なお、当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は、無効として取り扱いますので注意してください。

- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに理工学部教務課にその内容を届け出てください。
- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに理工学部教務課へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」（紛失・破損届）に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署（交番）に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを理工学部教務課にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 修了・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに理工学部教務課に返納してください。

#### 4. 学籍の喪失

修了以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合としては、**退学**と**除籍**の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

##### (1) 退学

###### ① 依願退学

**依願退学**は、学生自身の意志により学籍を喪失（本学の学生でなくなる）することです。依願退学は、学生の意志によるものであるから、何時でも願い出ることはできますが、公的教育機関との関係であり、次の諸手続きが必要です。

ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。

イ 当該学期分の学費を納入していること。（学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学する場合は、研究科で個別に対応をしているので相談してください。）

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることはできません。

###### ② 大学院博士後期課程の単位修得による依願退学

大学院博士後期課程に3年以上在学して、課程修了に必要な12単位以上を修得し、その認定を受けた場合、単位修得による依願退学を願い出ることができます。

###### ③ 懲戒退学

**懲戒退学**は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

##### (2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを**除籍**として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、懲戒退学と同じ結果となり、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

ア 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。

イ 在学し得る年数（通常の場合は修士課程5年、博士後期課程6年）以内に修了できないとき。

- ウ 休学期間を終えても復学できないとき。
- なお、死亡の場合も除籍として処理します。

## 5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、**休学**を願い出ることができます。

### (1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により願い出ること。
- イ 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ウ 保証人と連署で願い出ること。

### (2) 休学期間

- ア 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。
  - 1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに理工学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。
- イ 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ウ 休学期間は、連続して2年、通算して修士課程は2年、博士後期課程は3年を超えることができません。
- エ 休学期間は、本学に在学することのできる期間には、算入しません。
- オ 休学期間は、修了要件以上の在学すべき年数には、算入しません。

### (3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

### (4) 復学の願い出

休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願い出は、学期開始日の前1ヵ月以内にしなければなりません。

## 6. 再入学

- (1) 退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次又はそれ以下の年次に入学を許可することがあります（大学院学則第29条の2）。
  - ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 除籍された者が、再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次に入学を許可することがあります（大学院学則第30条の2）。
  - ただし、再入学を願い出ることのできる期間は、除籍された年度を含まず、3年以内とします。なお、除籍されて4年以上の場合は学科試験を受けることになります。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出るときは、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間・出願書類等については入試部に問い合わせてください。

## Ⅳ 授業休止の取扱基準

(交通機関の不通、台風等の場合の授業についての取り扱い)

ストライキ等により交通機関が不通となった場合や、台風による暴風警報が発令された場合は、下記の基準に従ってください。

### 1. 全学休講とする場合

次の(a)(b)どちらの事態が発生した場合でも、その時点でただちに全学休講とします。

- (a) 下記のうち、2つ以上の交通機関の運行が中止された場合は、その時点でただちに全学休講とします。対象とする交通機関および区間は次のとおりです。

- |     |                |                |
|-----|----------------|----------------|
| ① J | R              | (米原～西明石)       |
| ②   | 京都市営バス・京都市営地下鉄 | (全区間)          |
| ③   | 京阪電車           | (出町柳～淀屋橋)      |
| ④   | 阪急電車           | (河原町～梅田、梅田～三宮) |
| ⑤   | 近鉄電車           | (京都～橿原神宮前)     |

※ただし、**瀬田学舎**はJR(京都～米原)または帝産湖南交通(JR瀬田駅～龍谷大学)のいずれか1つの運行が中止された場合も休講とします。

- (b) 暴風警報が京都府南部(京都・亀岡、南丹・京丹波、山城中部、山城南部)、大阪府(北大阪、大阪市、東部大阪、泉州、南河内)、滋賀県南部(近江南部、東近江、甲賀)のいずれかに出された場合、その時点でただちに全学休講とします。

### 2. 授業等の開始基準

交通機関の運行再開および暴風警報解除の場合は、次の基準により授業等を実施します。

運行開始の時刻および警報解除時刻	授業・定期試験開始講時
午前6時まで	1 講時から平常どおり実施
午前10時まで	3 講時から平常どおり実施
午後2時まで	6 講時から平常どおり実施
午後2時以降	終日休講

### 3. その他の注意事項

- (1) 上記以外に、通学不能または通学困難と学長が認めた場合は、全学休講とすることもあります。
- (2) 定期試験期間中にこの措置が適用された場合、当該試験に関しては別途掲示により指示します。

## V 窓口事務

### 1. 理工学部教務課の窓口取扱時間

窓口取扱時間は次のとおりです。

曜日等	取扱時間	備考
月、水、木、金	9:00～17:30	ただし、授業期間・試験期間以外の期間は、11:45～12:45を閉室し、窓口業務は行いません。
火	10:45～17:30	
土、日、祝日並びに大学の定める休業日	窓口業務は行いません。	

### 2. 届書・願書および各種証明書

理工学部教務課窓口で取り扱う届書・願書および各種証明書には次のものがあります。なお、用紙はすべて本学所定のものを使用してください。(理工学部教務課窓口で受け取ることができます。)

(1) 届書 (※印のものは、保証人の連署が必要。)

事項	添付書類
※保証人変更届	特になし
現住所変更届	特になし
本籍地変更届	住民票記載事項証明書 (本籍地記入)
改姓名届	住民票記載事項証明書

(2) 願書 (※印のものは、保証人の連署が必要。)

事項	添付書類	受付期間
※休学願	理由書または診断書	○1年間・第1学期休学 当該年度の6月30日まで ○第2学期休学 当該年度の12月31日まで
※復学願	理由書	○第1学期復学 前年度3月1日から3月31日まで ○第2学期復学 当該年度9月1日から9月30日まで
※退学願	理由書または診断書、 学生証	
追試験受験願	理由書、追試験料納付書、 診断書等の証明書	当該科目の試験日を含め4日以内 (土・日・祝日は含まない)

**(3) 各種証明書の交付申請**

各種証明書は、原則として学内に設置している「証明書自動発行機」にて発行いたします。証明書自動発行機を利用する際は、「学生証」と「全学統合認証パスワード」が必要です。

ただし、証明書の種類によっては、証明書自動発行機から発行できない証明書がありますので、その場合は、証明書自動発行機で各種証明書の交付願を出力し、理工学部教務課に提出・交付申請を行ってください。

なお、電話やファクシミリ、電子メールによる証明書の交付申請は一切取り扱っておりませんので、予め留意してください。

各種証明書の交付に必要な日数や手数料は、下表のとおりです。

交付に必要な日数等	証明書の種類	手数料 (2007.4.1変更)	備 考
即日交付	在学証明書	1 通 100円	左記証明書（通学証明書を除く）は、証明書自動発行機から直接発行が可能です。
	卒業（修了）証明書		
	卒業（修了）見込証明書		
	学業成績証明書	1 通 200円	
	健康診断証明書		
	卒業（修了）・学業成績証明書		
	卒業（修了）見込・学業成績証明書		
学割証	無 料		
2日後交付	単位修得証明書	1 通 100円	左記証明書は、証明書自動発行機で交付願を出力し、理工学部教務課窓口にて提出してください。
	単位修得見込証明書		
	在籍証明書		
	教育職員免許状取得見込証明書		
	本願寺派教師資格科目履修証明書		
1週間後交付	学力に関する証明書	1 通 200円	
	英文証明書	1 通 300円	

(注1) 交付日は、原則として申請日から交付に要する日数を示します。

(注2) 手数料の納金は、すべて証明書自動発行機で行ってください。

(注3) 卒業見込に関する証明書は、データ更新等の処理に伴い発行できない期間が生じることがありますので注意してください。詳しくは理工学部掲示板でお知らせします。

(注4) 「卒業（見込）証明書」、「学業成績証明書」は、「卒業（見込）・学業成績証明書」という1枚の証明書として交付が可能です。特に分ける必要のない場合、「卒業（見込）・学業成績証明書」で交付を受けてください。

**《卒業後の証明書交付申請》**

電話による申請は一切受け付けておりません。

本学のホームページ上での「証明書交付願」フォームがダウンロードできます。携帯電話には対応していませんのでご了承ください。

URL <http://www.ryukoku.ac.jp> (本学ホームページ) の (訪問者別ガイド)「卒業生の方に」 - 「関連ページガイド」の「証明書発行」からアクセスできます。

### ① 郵送の場合

郵送による申請は、下記の内容に留意してください。

<ul style="list-style-type: none"><li>◆証明書に関して<ul style="list-style-type: none"><li>・必要な証明書の種類と枚数</li><li>・必要な証明書の使用目的</li></ul></li><li>◆申請者に関して<ul style="list-style-type: none"><li>・氏名（在学時から姓が変わられた方は、旧姓もご記入ください）</li><li>・生年月日</li><li>・出身学部、学科名（文学部は専攻名）</li><li>・学籍番号</li><li>・卒業年度</li><li>・現住所（郵便番号を含む）</li><li>・電話番号</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆同封が必要なもの<ul style="list-style-type: none"><li>・返信用封筒 返信先住所を明記してください。 (返信に必要な切手を貼付してください。)</li><li>・手数料 (手数料は同額の切手でも納金できます。)</li></ul></li></ul>
--	--

### ② 直接、来学する場合

直接、来学して申請する場合は、証明書自動発行機から出力される「証明書交付願」に必要事項を記入の上、理工学部教務課へ申請してください。直接、来学された場合は、即日交付が可能です。

### (4) 学校学生生徒旅客運賃割引証（以下、「学割証」）（手数料無料、即日交付）

学割証は、証明書自動発行機から直接発行ができます。ただし、必ず学生証を持参してください。

なお、交付枚数は原則として年度毎に1人10枚、1回の交付枚数は1週間に2枚以内です。※年間10枚を超えて必要な場合は、理工学部教務課で相談してください。

◆学割証の使用については、学割証裏面の注意事項を厳守することはもちろん、次の事項に注意してください。

ア. 学割証は本人に限って使用できますが、学生証を携帯しない場合は使用できません。

イ. 学割証の不正使用を行なった場合は、大学へのペナルティーとして、学割証の交付停止、即交付分の回収がされます。他の学生への不利益が生じますので、不正使用は絶対にやめてください。

ウ. 学割証は101 km以上の区間を乗車・乗船する場合に使用できます。割引率は普通運賃の2割引、有効期間は発行日から3ヵ月間です。なお、夏・冬期休暇前には学割証の申し込みが集中するので、余裕を持って申し込むようにしてください。

※なお、学生8名以上で（ただし、学生8名の他に教職員（非常勤講師含む）1名以上の引率者を含むことを条件として）旅行する場合は、運賃が5割引（ただし、引率者は3割引）となる制度があります。申込用紙（生協サービス事業部、各主要駅、旅行代理店等で求めてください）を出発日2週間前までに下記窓口へ提出の上、手続きすれば即日発行されます。

ゼミナールやクラスの場合……………理工学部教務課

クラブやサークルの場合……………学生部

### 3. 各種証明書の交付について

各種証明書および申請書の発行申込等には、学生証が必要です。また、手続き方法は、証明書自動発行機で申請書を交付しますので、理工学部教務課窓口にて申請手続きを行ってください。

#### ◆証明書自動発行機の設置場所およびサービス時間等について

学舎	設置場所	曜日	時間帯
深草	21号館 1階エントランスホール	月～金	8:45～21:50
		土	8:45～17:15
	紫英館 1階各学部教務課窓口	月～金	8:45～17:15 (但し、火曜日は10:30～)
	紫光館 1階ロビー	月～土	8:45～17:15
大宮	西翼（新館）1階ロビー	月～金	8:45～20:15
		土	8:45～17:15
瀬田	1号館 1階エントランスホール	月～土	9:00～17:30

#### ⚠ 注意事項

- ・証明書自動発行機を利用するときは、「学生証」と学生個々に与えられる「全学統合認証パスワード」が必要です。  
※パスワードは、学内パソコンのログイン用と同じです。新入生は入学時のオリエンテーションで説明します。
- ・上記サービス時間帯は、原則として学年暦にある講義期間中の対応とします。
- ・オリエンテーション期間を含む新学期当初の予定、試験期間中、春期・夏期・冬期休暇中の運用時間帯については、サービス時間を変更します。サービス時間は本学ポータル内「証明書発行機運用時間」で公開しています。
- ・証明書自動発行機から直接発行が可能な証明書の交付および交付願の出力は、いずれの学舎の証明書自動発行機でも対応しています。ただし、証明書自動発行機から直接発行ができない証明書については、所定の手続きが必要となりますので、理工学部教務課窓口で申請してください。
- ・学生証の再発行手続きが生じた場合、理工学部教務課窓口に申し出てください。証明書自動発行機にて申請書を交付しますので、必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口に提出してください。
- ・証明書自動発行機では、証明書交付以外に各種特別研修講座や就職対策講座などの講座受講申込にも対応しています。その他、手数料が必要な場合も、原則として証明書自動発行機にて対応します。
- ・夜間時間帯および土曜日において、証明書自動発行機に故障が生じた場合や「買い間違えた」場合の対応は、翌日もしくは翌月曜日以降となります。

### 4. 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2009年5月施行の「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」（「裁判員法」）に伴い、みなさんが裁判員（候補者）に選任される可能性があります。

「呼出状」が届いて教育上の配慮が必要な場合は、速やかに理工学部教務課に相談してください。

裁判員（候補者）を務める場合は、理工学研究科長から当該授業科目を授業欠席すること及びそれによる教育上の不利益について講義担当者に配慮を求めることとします。試験については追試で対応することとし、追試料は無料とします。

## Ⅴ 留学

龍谷大学では、国際的な社会に貢献できる人材の育成を目的として、学生の海外派遣を積極的に推進するため、以下のような留学制度があります。

経済、社会、文化、政治などあらゆる局面で国際的な相互依存関係が深まっている現在、海外の大学での学修、文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。

詳しくは、国際部（深草学舎 6 号館 1 階）、国際文化学部教務課（瀬田学舎 3 号館 1 階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページ（URL <http://intl.ryukoku.ac.jp>）を参考にしてください。

### 1. 交換留学

交換留学とは、学術研究および国際理解の発展のために海外の大学と学生交換協定を締結し、学費の免除や奨学金を受けて留学する制度です。この協定に基づき、原則として毎年同じ人数の学生を派遣・受入しています。

留学期間は原則 1 年間で、その期間、龍谷大学の学費免除（ただし、留学在籍料は必要）、留学先大学の学費免除、宿舍費免除や奨学金支給等（ただし、条件は大学により異なります）の特典が受けられます。募集案内、応募方法などは、国際部、国際文化学部教務課で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページを参照ください。

#### 学生交換協定校（18 カ国 37 大学）

地域	留 学 先		応募方法
アジア	中 国	復旦大学、上海師範大学、同済大学、中国人民大学、大連外国語大学、大連工業大学	国際部にて募集し、語学試験および面接によって選考します。 応募締切日は、各募集大学によって異なります。
	台 湾	台湾師範大学	
	韓 国	東国大学、東亜大学	
	タ イ	チュラロンコン大学、アサンプション大学	
北米	アメリカ	カリフォルニア州立大学ノースリッジ校、アンティオークカレッジ、南ミズーリ州立大学、米国仏教大学院、カリフォルニア大学デービス校*1、東テネシー州立大学、アイダホ大学	
	カナダ	キングス・ユニバーシティ・カレッジ、カルガリー大学、クワントレン・ポリテクニク大学、ヒューロン・ユニバーシティ・カレッジ	
オセアニア	オーストラリア	RMIT大学、マードック大学	
ヨーロッパ	ロシア	モスクワ大学アジア・アフリカ学院	
	ウクライナ	キエフ大学	
	ポーランド	ワルシャワ経済大学	
	イギリス	ウエストミンスター大学、リバプール・ジョン・ムアーズ大学	
	ドイツ	デュースブルグエッセン大学	
	フランス	リヨン第3大学	
	フィンランド	東フィンランド大学（旧ヨエンスク大学）	
	スウェーデン	リネウス大学（旧ベクショー大学）	
	デンマーク	オーフス大学	
アフリカ	スペイン	バルセロナ自治大学、バレンシア大学	
	南アフリカ	クワズール・ナタール大学	

\* 留学先大学の都合により条件が変更になる場合や募集を行わない場合がありますので、国際センターホームページ（URL <http://intl.ryukoku.ac.jp>）の情報を確認してください。

#### \* 1 カリフォルニア大学デービス校（UC Davis）との大学院交換プログラム

龍谷大学大学院理工学研究科とカリフォルニア大学デービス校（以下、UC Davis）工学部との間に大学院生交換プログラムのための協定が締結されています。

募集の案内は掲示板にてお知らせします。希望者は指導教員とよく相談してください。

	留学期間	募集時期	募集人数
春期留学	2011年3月下旬～2011年9月上旬	2010年5月～6月	若干名
秋期留学	2011年9月下旬～2012年3月下旬	2010年10月～11月	若干名

※留学期間・募集時期は、UC Davis、本学の都合により、変更となる場合があります。

出願資格：理工学研究科に正規に在籍する大学院生

理工学研究科修士課程入学試験に合格し、進学希望の理工学部4年生

選考方法：第一次審査…書類審査及び面接とし、理工学研究科教員による英語及び日本語による面接  
第二次審査…龍谷大学国際センター会議委員による面接

その他：合格者には、国際センターにおいてオリエンテーションが実施されます。

理工学会による渡航費の補助制度が利用できます。

詳細については、理工学部教務課にお問い合わせください。

## 2. 私費留学

各自で留学したい大学を探し、大学から承認を得て留学する方法で、龍谷大学から毎年約100名の学生が私費留学をしています。

この留学は交換留学と同じく、留学期間は在学期間に算入され、取得した単位は単位認定の対象となります。

交換留学と大きく異なる点は、留学先大学の学費や寮費等が自己負担であること。また、留学手続き等は各自で行うことです。手続前に理工学部教務課や指導教員と相談してください。

## 3. 個人留学（休学して留学する）

大学を休学した場合、留学先で勉強した期間は在学期間に算入されません。また、単位の認定も行われません。1年間（ないし半年間）海外の専門語学学校で語学をみっちり勉強したいという学生や、ワーキングホリデーをしてみたい、海外でボランティアをしてみたいという学生がよく利用する方法です。

## 4. 短期留学

長期休業期間を利用し、現地で外国語等を学ぶことができるように種々の海外研修を実施しています。海外で集中語学研修と異文化体験をしたい学生にすすめます。

プログラムによって申込窓口が異なります。国際部、国際文化学部教務課の掲示板やホームページを参考にしてください。

## Ⅶ 通学について（自転車・バイク・自動車）

### 1. 自動車通学の禁止

本学では、**自動車による通学を全面的に禁止**しています。これは交通事故の防止、大学周辺環境の維持等の理由からです。

しかし、禁止しているにも関わらず、キャンパス近隣の公共施設駐車場等に駐車し、自動車通学する学生が後を絶ちません。これらは社会のルールに反するもので、大学の名誉を著しく傷つける行為です。

迷惑駐車により、地域住民や近隣施設からの苦情も受けています。

このような自動車通学が判明した場合には、保護者への連絡、ゼミ担当教員等からの指導の上、厳しく処分することとしています。学生諸君の節度ある行動を強く求めます。

### 2. バイク・自転車通学

バイク・自転車は、多くの学生が利用しています。しかし、最近通学途上でバイクによる交通事故や自転車の接触事故等が多発しています。

また、「バイク・自転車が、狭い生活道路を、スピードを出して通行して危険である」等の苦情が近隣住民から寄せられています。大学までの通学途中には、小学校や保育園等があり、その保護者からも心配する声が寄せられています。

加害者・被害者の如何を問わず、交通事故による悲劇や地域住民への迷惑を回避するためにも交通ルール・マナーを遵守し、安全運転を心がけてください。

### 3. バイク・自転車の駐輪

バイク・自転車は必ず構内の指定された場所に駐輪してください。構内の建物周辺や路上等に長時間放置しているバイク・自転車は、「駐輪場利用要領」に基づき、一定期間保管の後、処分します。

また、「駐輪場利用要領」に定めるとおり、駐輪場内での事故・盗難および破損等について大学は一切関与致しませんので、各自の責任で被害に遭わないよう十分注意してください。

### 4. 交通安全教育講習会について

学生の安全確保と交通マナー向上を促進するため、毎年定期的に「交通安全教育講習会」を実施しています。このような機会を積極的に利用して、皆さんが安全な学生生活を心がけてください。

### 5. 自動車の臨時入構許可について

自動車による通学を全面的に禁止していますが、以下のような理由がある時は、例外として許可することがありますので、必要な場合は必ず事前に相談してください。

- ① 夜間にまで及ぶ研究等で、公共交通機関の利用が困難な場合 → 理工学部教務課
- ② 長期間の疾病や障がい等により、公共交通機関の利用が困難な場合 → 理工学部教務課
- ③ 大学行事やクラブ活動のため、資材等を運搬するのに必要な場合 → 学生部

許可なく入構した場合は、厳重に処分する対象となりますので、必要な事情がある場合には、必ず事前に相談してください。

## Ⅷ 保健管理センターの利用について

### 1. 保健管理センターについて

#### 【主な業務】

- \* 健康診断および健康診断後の保健指導
- \* 応急処置
- \* 健康に関する相談
- \* 心理カウンセラーによる相談
- \* 診療（内科・精神科）※健康保険証が必要
- \* 精神科医による心の相談
- \* 健康診断書の発行
- \* 健康に関する調査・研究・教育
- \* 健康増進のための学習会の開催

### 2. 定期健康診断について

#### 【検査項目】

- \* 身長、体重、胸部レントゲン、尿検査（蛋白・糖）、問診、視力（対象者のみ）、内科診察（必要時）

#### 【実施時期など】

- \* 毎年、3月から4月に実施します。指定された日に受けてください。（巻頭の「2010年度学生定期健康診断日程表（理工学研究科）」を参照のこと）指定日に受けられない場合は、他学部の同学年の指定日に受検してください。**※この期間に必ず受検すること**
- \* 勤務先（会社など）で健康診断を受ける方は、結果（コピー可）を保健管理センターに提出してください。
- \* 詳細は、掲示板や保健管理センターのホームページなどで確認してください。

### 3. 健康診断証明書・健康診断書の発行について

健康診断証明書・健康診断書は、本学の定期健康診断の結果に基づいて発行します。

**従って、本学の定期健康診断を受けていない場合は、発行できません。**

#### 【健康診断証明書について】

- \* 「健康診断証明書」は、自動発行機で**当該年度の学位授与日まで**発行します。用途は、就職活動や本学に提出する各種実習受講、奨学金申請等に限られます。

#### 【健康診断書について】

- \* 進学や大会参加、アルバイトなどで使用する健康診断書は、医師の診察が必要です。発行までに数日かかることがありますので、指定用紙や要項を持参の上、余裕をもって申し込んでください。

### 4. 保健管理センターの利用について

#### ① 応急処置や休養室の提供

医師の診療時間以外に体調が悪くなった時やケガをした時、看護師が応急処置や休養室の提供を行っています。状態により医師の診察が必要な時は、外部医療機関を紹介します。

#### ② 健康相談

健康上の相談や悩みも気軽に相談してください。必要に応じて看護師が窓口になり、カウンセラーや医師に紹介します。

#### ③ 保健・医療に関する情報提供

保健管理センターには、身長体重計・体脂肪計・視力計・血圧計が設置されています。自己の健康管理に利用してください。

大学近辺の医療機関のご案内や健康情報などをホームページに掲載していますのでご利用ください。

URL : <http://www.ryukoku.ac.jp/hoken>

**【開室時間】**

〔深草学舎・大宮学舎〕 8:45～17:15（昼休み11:30～12:30）

〔瀬田学舎〕 9:00～17:30（昼休み11:45～12:45）

※休業期間等は開室時間の変更があります。

**5. 診療所について**

【診療科名】 内科・精神科

【診療日及び時間】 詳細は、保健管理センターのホームページで確認してください。

【費用】 診療には「**健康保険証**」が必要です。コピーの健康保険証は使用できません。

※健康保険証を持ってない人は、早急に手続きをして「遠隔地被保険者証」を取り寄せてください。

遠隔地被保険証の発行は、証明書自動発行機で在学証明書を取り、保護者の勤務先（社会保険）で申請してください。また、自営業の場合は、市・区・町村役場（国民健康）に申請すれば作成してもらえます。

※医師の診察を受けずに薬だけお渡しすることはできません。症状は、体からの「SOSサイン」ですので、必ず医師の診察を受けてください。

**6. なんでも相談室について**

学生生活を有意義に送ることができるよう、深草・瀬田学舎の学生部の中に「なんでも相談室」（大宮学舎は西翼2階・こころの相談室内別室）を設けています。学生生活でのあらゆる相談や問い合わせを受け付ける「よろず相談窓口」です。相談に応じて、アドバイスや情報の提供、適切な相談先への紹介も行っています。予約は不要です。どんな小さなことでも気軽に訪れてください。

※「なんでも相談室」は、保健管理センターの「こころの相談室」とも連携しています。希望に応じて、カウンセラー（臨床心理士）による相談を受けることもできます。医療機関への案内も行っています。

**7. 学生相談（こころの相談室）について**

学生生活全般に関するさまざまな相談（対人的なこと、学業・進路、心身の健康等）に、カウンセラー（臨床心理士）が応じ、学生生活支援を目的とした心理的なサポート等を行います。相談の申込はポータルサイト上でのweb予約も可能です。詳しくは、保健管理センター「こころの相談室」のホームページをご覧ください。また、直接窓口での申込も可能ですのでお問い合わせください。相談は予約制（無料）です。お急ぎの場合は、まず「なんでも相談室」もご利用ください。

**【窓口受付】**

「こころの相談室」へのお問い合わせは、深草学舎の窓口で一括対応しています。

月～金曜日 9:00～17:00（12:30～13:30を除く）

電話075-642-1111（代表）

**8. 健康増進のための学習会について**

心身ともに健康な学生生活が過ごせるよう、健康学習会を行っています。掲示やポータルサイト等で随時案内しますので積極的に参加してください。

# シラバス

## I. 修士課程

数理情報学専攻	69
電子情報学専攻	79
機械システム工学専攻	88
物質化学専攻	96
情報メディア学専攻	109
環境ソリューション工学専攻	116

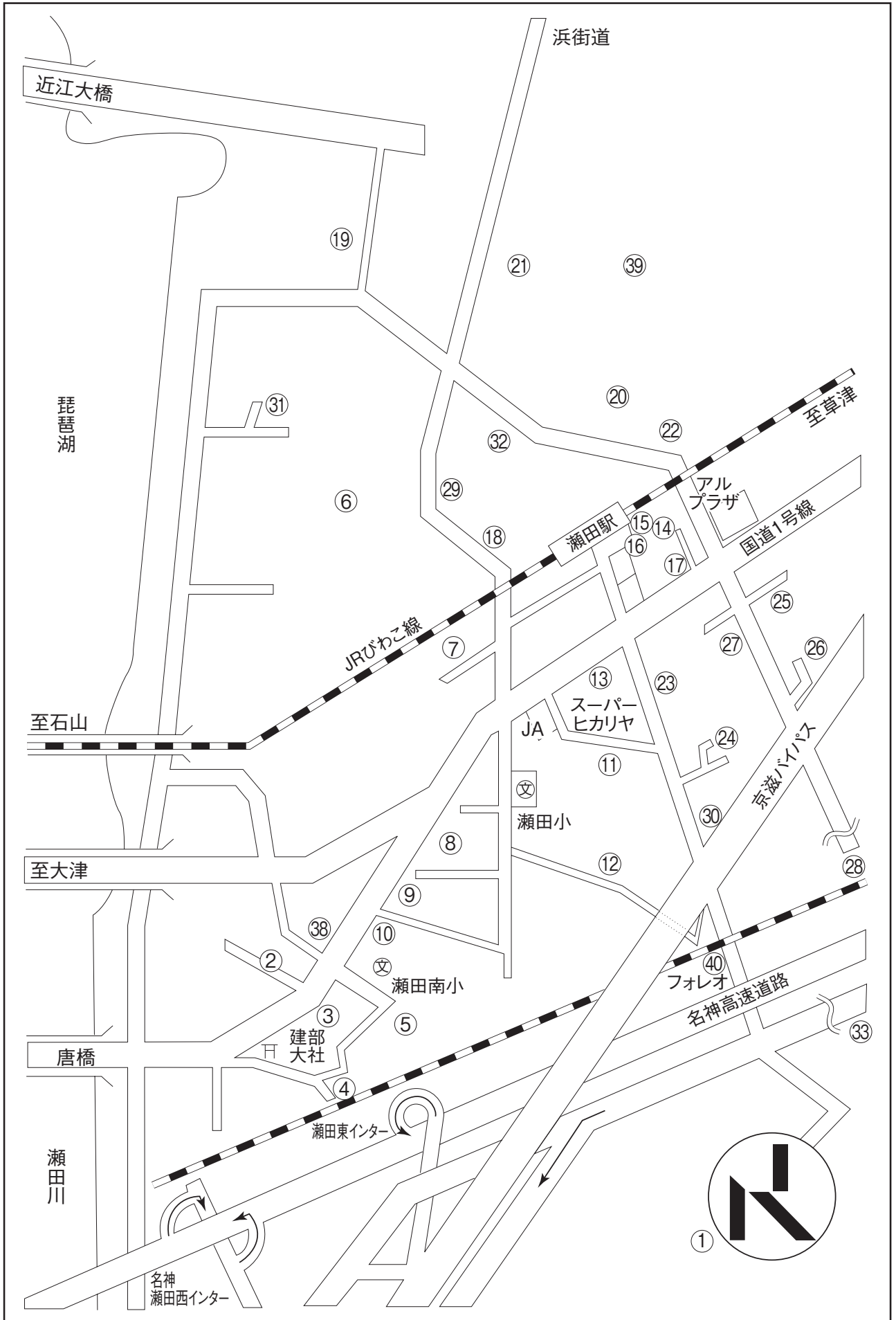
## II. 博士後期課程

数理情報学専攻	125
電子情報学専攻	128
機械システム工学専攻	131
物質化学専攻	134
情報メディア学専攻	137
環境ソリューション工学専攻	139

# 瀬田学舎近隣医療機関

※診療科目、診療日、診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認して下さい。

病院名	住所	電話番号	診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土
① 龍谷大学 瀬田診療所	龍谷大学4号館B1階 保健管理センター内	077-543-7781	内科・精神科	午前	×	×	×	×	×	×
				午後1:00～4:00月1:30～4:30火・水・金	○	○	○	×	○	×
				午後 精神科1:30～3:00(要予約) 木	×	×	×	×	×	×
② 林医院	大津市瀬田1丁目4-16	077-545-5592	内科・循環器科	午前9:00～12:00月・水・金・土	○	×	○	×	○	○
				午後5:30～8:00木	×	×	×	○	×	×
③ 瀬田医院	大津市神領1丁目9-20	077-545-2575	内科・消化器科・ 皮膚科	午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後5:00～7:00月・水・金	○	○	○	×	○	×
④ 加藤内科胃腸科	大津市神領2丁目39-3	077-545-8810	内科・胃腸科	午前9:00～12:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後5:00～8:00月・水・金	○	×	○	×	○	×
⑤ 前田医院	大津市萱野浦13-11	077-545-3395	内科	午前9:00～12:30月～土	○	○	○	○	○	○
				午後5:00～7:30月・水・木・土	○	×	○	○	×	○
⑥ レイクサイドクリニック	大津市大江1丁目3-20	077-544-2995	内科・消化器科・ハビリ テーション科・小児科	午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後4:30～6:30月・火・木・金	○	○	×	○	○	×
				午前8:30～10:30月・水～土 (第1・3・5週/土曜予約制)	○	×	○	○	○	○
⑦ 鶴岡眼科医院	大津市大江2丁目12-38	077-544-1075	眼科	午後1:00～3:00月・水・金	×	×	○	×	○	○
				午後3:00～4:00水・金(予約制)	×	×	○	×	○	×
				午後5:30～7:30月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑧ 山口医院	大津市大江3丁目3-20	077-545-2207	内科・胃腸科	午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後5:30～7:30月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑨ 駒井外科医院	大津市大江3丁目11-25	077-545-3067	外科	午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後5:30～8:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑩ 矢沢耳鼻咽喉科医院	大津市大江3丁目24-15	077-544-3110	耳鼻咽喉科・ アレルギー科	午前9:00～12:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後4:00～7:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑪ 岡島内科 胃腸科医院	大津市大江4丁目19-12	077-545-8600	内科・胃腸科	午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後5:30～7:30月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑫ 玉川医院	大津市大江5丁目33-5	077-548-3431	内科・消化器科・リハビ テーション科・外科	午前9:00～12:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後5:00～7:00月～金	○	○	○	○	○	×
⑬ 瀬田耳鼻咽喉科	大津市一里山1丁目 2-13	077-543-1490	耳鼻咽喉科・ アレルギー科	午前9:00～12:30月～土	○	○	○	○	○	○
				午後3:30～7:00月～金	○	○	○	○	○	×
⑭ 本田眼科	大津市大萱1丁目16-15	077-543-0878	眼科	午前9:30～12:30月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後4:00～6:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑮ 藤尾医院	大津市大萱1丁目17-5 本郷第2ビル4階	077-543-0310	内科・呼吸器科・ 外科	午前8:30～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後5:00～8:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑯ 小西医院	大津市大萱1丁目17-35	077-543-3600	内科・皮膚科・ 泌尿器科・外科	午前9:30～12:30月～土	○	○	○	○	○	○
				午後5:00～7:30月・火・木・金	○	○	×	○	○	×
⑰ 棚橋整形外科	大津市大萱1丁目20-12	077-545-8020	整形外科・外科・ リハビリテーション科	午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後3:30～6:30月～金	○	○	○	○	○	×
⑱ 桂医院	大津市大萱3丁目15-21	077-545-2217	皮膚科	午前9:00～13:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後	×	×	×	×	×	×
⑲ 中橋歯科医院	大津市大萱1丁目13-20	077-543-0800	歯科	午前9:00～12:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後2:00～7:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
⑳ ののむら眼科	大津市大將軍1丁目 13-12	077-543-5439	眼科	午前9:00～12:30月～土(第4土曜休診)	○	○	○	○	○	○
				午後4:30～6:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
㉑ たか耳鼻咽喉科医院	大津市大將軍1丁目 27-1	077-547-2021	耳鼻咽喉科・ アレルギー科	午前9:30～12:30月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後3:30～6:30月～金	○	○	○	○	○	×
㉒ かとう医院	大津市大將軍3丁目 8-16	077-544-1011	内科・循環器科	午前9:00～12:00月～土(第2土曜休診)	○	○	○	○	○	○
				午後5:00～7:00月・水・金	○	×	○	×	○	×
㉓ かとう医院	大津市大將軍3丁目8-16	077-544-1012	婦人科	午前9:00～12:00月・水・金・土(第2土曜休診)	○	×	○	×	○	○
				午後4:00～6:00火・金	×	○	×	×	○	×
㉔ 田中皮フ科医院	大津市一里山1丁目8-29 一里山中央ビル2階	077-545-1232	皮膚科	午前9:30～12:30月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後4:00～7:30月～水・金	○	○	○	×	○	×
㉕ 川内内科医院	大津市一里山2丁目22-3	077-545-6789	内科・消化器科	午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後5:00～8:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
㉖ 瀬田クリニック	大津市一里山3丁目1-5	077-545-3945	内科	午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後1:00～5:00月・水・木	○	×	○	○	×	×
㉗ 井上医院	大津市一里山3丁目7-5	077-543-9400	内科・小児科・ 循環器科	午前8:30～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後4:00～6:30月・水・金	○	×	○	×	○	×
㉘ 松本 ペインクリニック	大津市月輪5丁目22-22	077-543-6096	内科・外科・麻酔科	午前9:00～11:30月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後5:00～7:00水	×	×	○	×	×	×
㉙ 水谷医院	大津市大萱3丁目6-33	077-547-2789	消化器科・肛門科・ 外科・整形外科	午前9:00～12:00月・火・木～土	○	○	×	○	○	○
				午後4:00～8:00月～木(土は2:00～5:00)	×	○	○	○	×	○
㊱ はえうち診療所	大津市一里山4丁目25-21	077-543-3861	内科・胃腸科・ 肛門科・外科	午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後3:00～5:00月・火・木・金	○	○	×	○	○	×
㊲ まるやま歯科 クリニック	大津市一里山1丁目3-6	077-547-3560	歯科	午前9:00～午後1:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後3:00～8:00月～金	○	○	○	○	○	×
㊳ まつだ医院	大津市大萱2丁目4-20	077-543-3000	外科・胃腸科・内科・ 小児科・リハビリテ ーション科	午前8:30～11:30月～土	○	○	○	○	○	○
				午後4:00～7:00月・水・金	○	×	○	×	○	×
㊴ 滋賀医科大学 附属病院	大津市瀬田月輪町	077-548-2111 時間外 548-2770	全科 (救急指定病院)	初診 午前8:30～10:30	○	○	○	○	○	×
				再診 午前8:30～11:00月～金	×	×	×	×	×	×
				午後	○	○	○	○	○	○
㊵ 大津市民病院	大津市本宮2丁目9-9	077-522-4607	全科 (救急指定病院)	午前8:30～11:30月～金	○	○	○	○	○	×
				午後	×	×	×	×	×	×
㊶ 大津赤十字病院	大津市長等1丁目1-35	077-522-4131	全科 (救急指定病院)	午前8:00～11:30月～金	○	○	○	○	○	×
				午後	×	×	×	×	×	×
㊷ 社会保険 滋賀病院	大津市富士見台16-1	077-537-3101	全科 (救急指定病院)	午前8:30～11:30月～金	○	○	○	○	○	×
				午後	×	×	×	×	×	×
㊸ 近江草津 徳洲会病院	草津市東矢倉3丁目 34-52	077-567-3610	全科 (救急指定病院)	午前9:00～11:30月～土	○	○	○	○	○	○
				午後5:00～7:30月～金(内科)	○	○	○	○	○	×
㊹ 大村整形外科医院	大津市大江2丁目30-8	077-547-3551	整形外科・リハビ テーション科	午前9:00～12:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後4:00～7:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
㊺ 大道医院	大津市大將軍1丁目15-7	077-547-3650	内科・呼吸器科・ 循環器科	午前9:00～12:00月・火・木～日	○	○	×	○	○	○
				午後4:30～7:30月・火・木・金	○	○	×	○	○	×
㊻ こはらデンタル クリニック	大津市一里山7-1-1 フォレオ大津一里山	077-514-8714	一般歯科・口腔外科	午前10:00～13:00月～水・金～日	○	○	○	×	○	○
				午後3:00～8:00月・水・金～日	○	×	○	×	○	○



## 滋賀県救急医療情報ネット

<http://www.shiga.qq-net.jp/>

### 利用になるための注意

- ※電話・FAXで現在診療中の医療機関を案内するサービスです。
- ※事前にメモを用意しておくとう便利です。
- ※案内を受けた病院・診療所に行かれる場合は、必ず電話で確認を行ってください。
- ※重症の場合や命にかかわるような症状の場合は、救急車を要請してください。
- ※一部のダイヤル式電話機では、利用になれない場合があるので注意してください。

医療機関をお探しの地域	電話番号
大津市	077-525-3799
草津市、守山市、栗東市、野洲市	077-553-3799
甲賀市、湖南市	0748-62-3799
近江八幡市、東近江市（旧八日市市・永源寺町・五個荘町・能登川町・蒲生町）、蒲生郡	0748-23-3799
愛知郡、東近江市（旧湖東町・愛東町）	0749-45-3799
彦根市、犬上郡	0749-23-3799
長浜市、米原市、東浅井郡、伊香郡	0749-63-3799
高島市	0740-22-3799

# 龍谷大学瀬田学舎見取図

